

TOYOTA AUTO BODY

COMS

P・COM/B・COM

OWNER'S MANUAL



取扱説明書

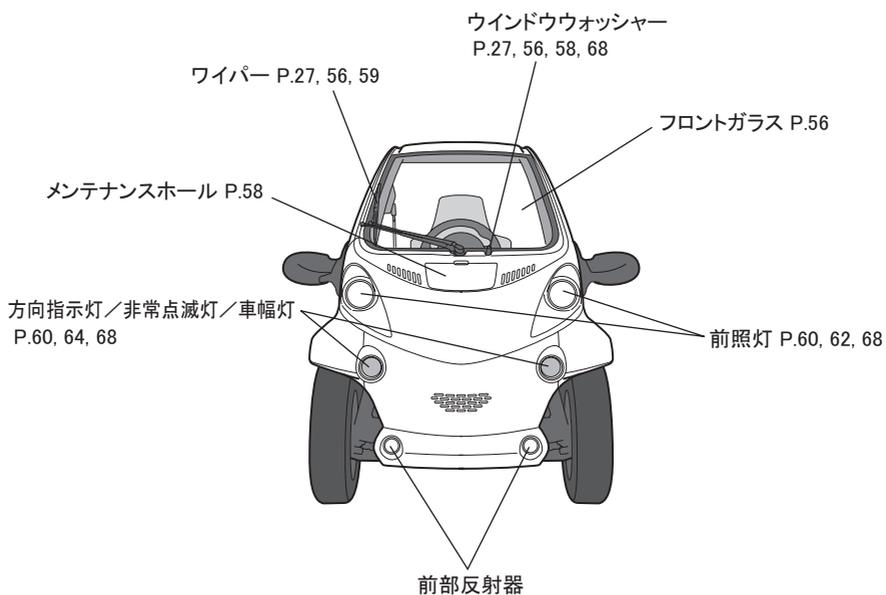
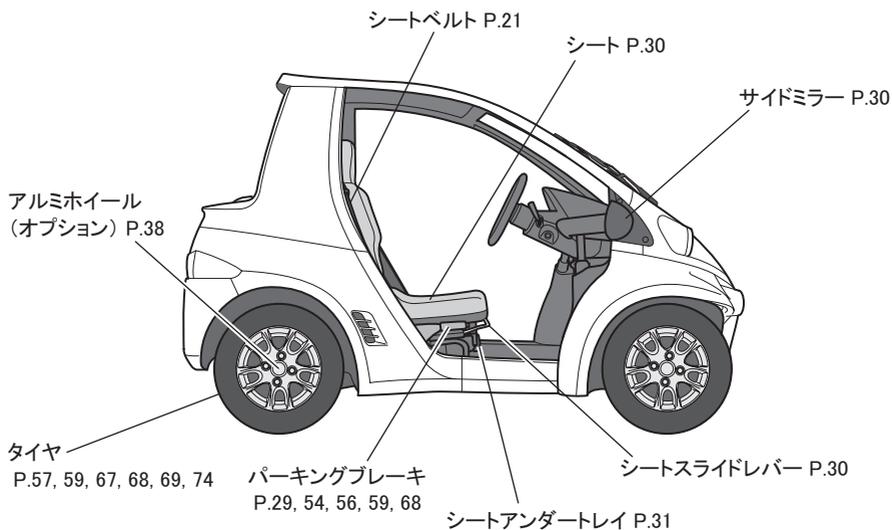
ご使用の前に必ずお読みください。
いつまでも大切に保管してください。

目次

1. 必ず読みましょう	確認しましたか？	1
	危険です！	3
	走行するときは！	5
	点検を受けてください！	9
	長くお使いいただくためには！	10
2. 警告・使用方法ラベルの種類と貼付け位置		11
3. 充電について	(1) 充電に関する装備	13
	(2) 充電表示灯について	13
	(3) 充電時の注意事項	14
	(4) バッテリーを長持ちさせるための充電方法	18
	(5) 充電の方法	19
	(6) バッテリーについて	20
4. 安全装置（シートベルト）		21
5. 操作装置	(1) メーターの見方	24
	(2) 表示灯・警告灯の見方	25
	(3) 視界の確保	26
	(4) 運転装置	28
6. 快適装備	(1) 収納装備	31
	(2) その他の装備	32
	(3) 車両仕様別装備	33
	(4) オプション部品	38
7. 運転操作	(1) 走行する前に	52
	(2) 走行	53
	(3) 停車	54
	(4) 駐車	55
8. 寒冷時の取扱い		56
9. メンテナンス	(1) 日常点検	58
	(2) お手入れ	61
	(3) 電球（バルブ）の交換	62
	(4) その他の点検整備	67
	(5) メンテナンスデータ	68
10. 万一の場合	(1) 警告機能	70
	(2) けん引	73
	(3) 固縛ポイント	74
	(4) ジャッキアップ	74
11. 廃棄するとき		75

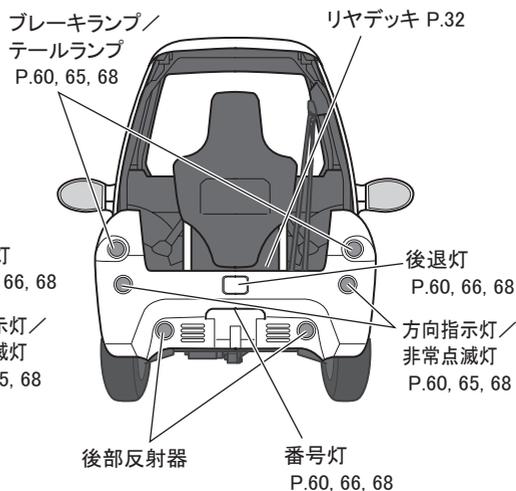
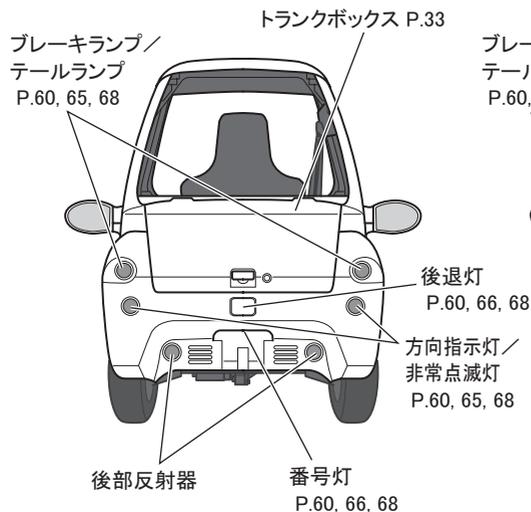
イラスト目次

〔外観図〕



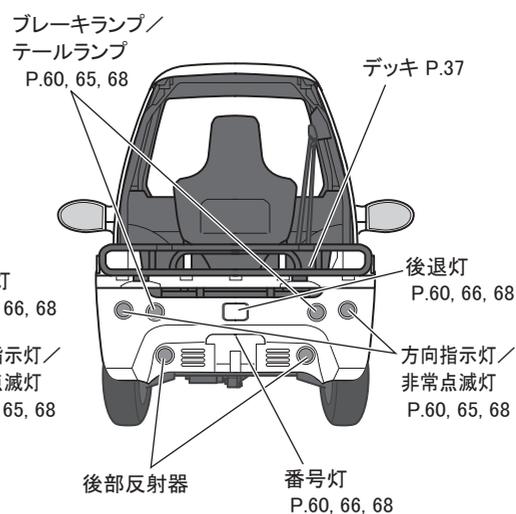
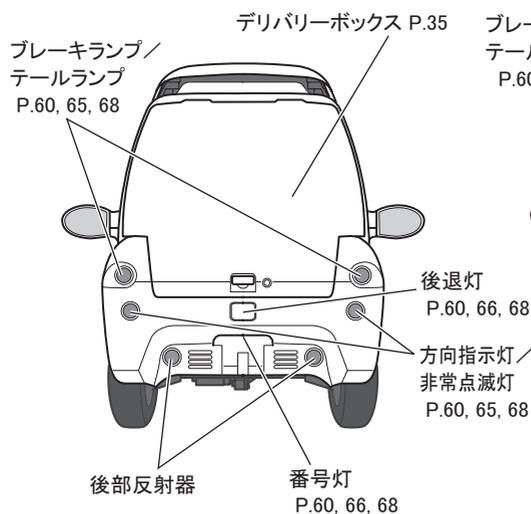
<P・COM>

<B・COM ベーシック>

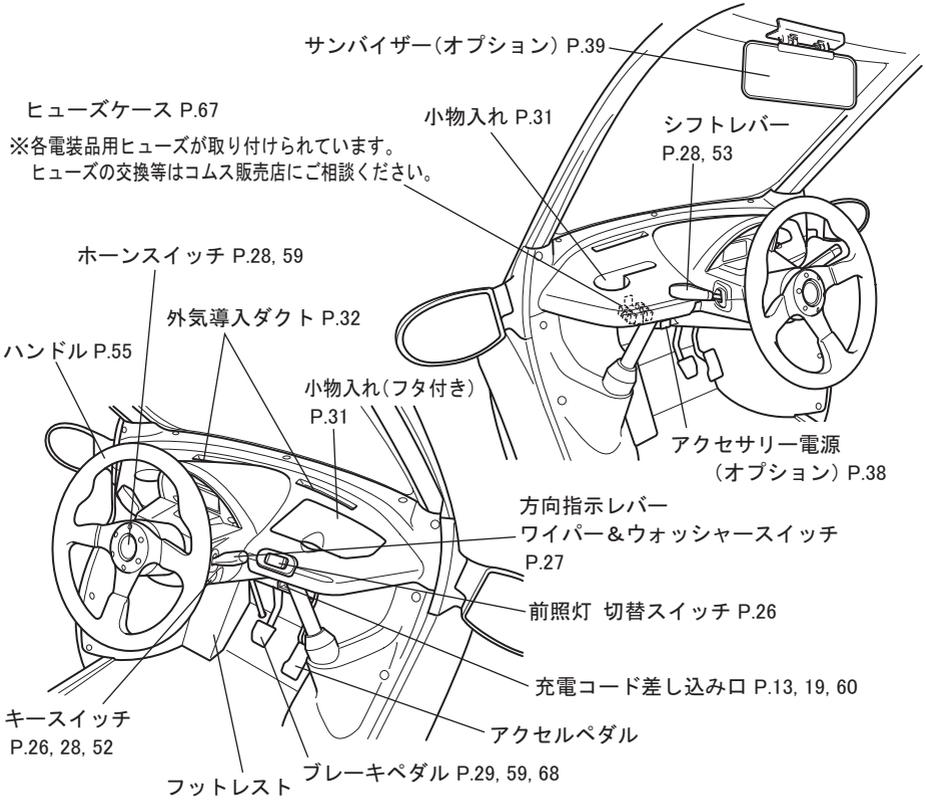


<B・COM デリバリー>

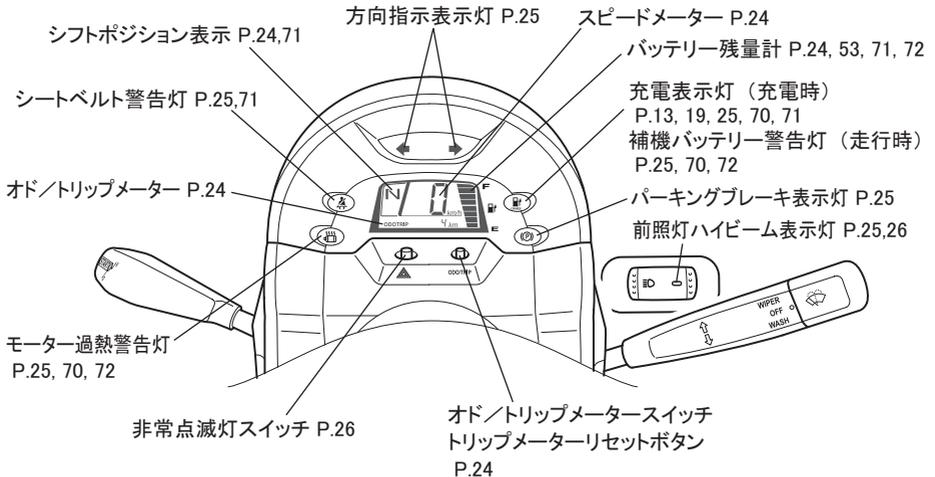
<B・COM デッキ>



〔運転者席付近配置図〕



〔スピードメーター周辺の表示〕



知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。

また、車の仕様変更より、内容が車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

イラストは、記載している仕様等の違いにより、お客様の車の装備や色と一致しない場合があります。

コムスには、電気自動車独自の取扱いがありますのでご使用前によくお読みいただき、手引きとして車両（シートアンダートレイ）に保管してください。

◇コムスは道路運送車両法上、第一種原動機付自転車（四輪）となります。

ご当地ナンバーなどを発行している一部自治体を除いて基本的には水色ナンバーとなります。

原動機付自転車（白色ナンバー）など誤って登録しますと、道路運送法違反および軽自動車税の過少納付等と判断される可能性があります。

◇コムスは道路交通法上、ミニカーに分類され普通自動車扱いとなります。運転する場合は普通自動車の運転免許証が必要です。

◇コムスを貸したり、譲り渡す場合は、この取扱説明書を必ず添えてお渡しいただき、ご使用前にお読みいただくようお願いいたします。

◇コムスの改造は、故障や重大な事故の原因となりますので、絶対にしないでください。

改造に起因する損害は保証の対象外となります。

◇品質改良や仕様変更などにより、この取扱説明書の記載内容が、お手元の製品と一部異なる場合がございます。あらかじめご承知おきください。

◇保証書、メンテナンスノートはよくお読みになり、保証書の販売店名・捺印を確認された上、大切に保管してください。

◇ご不明な点、不都合がございましたら、早めにお買い上げいただいたコムス販売店、もしくはトヨタ車体へお気軽にご相談ください。

安全に関する表示

安全にお使いいただくために、特に重要な事項ですのでしっかりお読みください。これらを守らないと事故につながったり、ケガをしたり、コムスが損傷するなどの恐れがあります。

 危険	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるもの。かつその切迫の度合が高い危害の程度、但しこの表示は限定的で使用し、多用しない。
 警告	その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う恐れのあるもの。
 注意	その指示に従わなかった場合、軽傷を負うかまたは物的損害が発生する恐れのあるもの。ただし、状況によっては重大な結果につながる場合がある。
 チェックポイント	操作・保守点検をするときの一般的な注意事項で、製品自体の損害を防ぐための注意事項も含む。
	絶対に行わないでください。
	必ず指示に従い、実施してください。

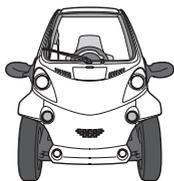
※上記中の損害の程度の意味は、下記のとおりです。

- 重傷** : 生命の危険はないが、ケガ・火傷・感電・骨折等で後遺症が残る可能性があるもの、および治療に入院や長期の通院を要するもの（全治1ヵ月以上）。
- 軽傷** : 軽微なケガで治療に入院や長期の通院を要さないもの（全治1ヵ月未満）。
- 物的損害** : 家屋・家財および家畜やペットなどにかかわる損害。ただし、コムス自体のみの損害（自損）は含まれない。

1. 必ず読みましょう

確認しましたか？

◇日常点検の実施

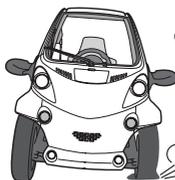


日常点検は必ず実施してください。

コムスを安全にお使いいただくため、法令に準じ、日常のお車の使用状態に応じて、お客様の判断で行う点検です。

P. 58またはメンテナンスノートをお読みにになり、その指示に従ってください。

◇タイヤ空気圧の点検



空気圧不足のまま走行すると、思わぬ事故につながる可能性がありますので、乗車する前に必ず点検してください。

◇ペダルの位置と操作



ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながりますので、走行前にペダルの位置を確かめ、アクセル・ブレーキペダルを右足で操作してください。

◇シフトレバーの確認



キースイッチをONにするときは「N」、前進するときは「D」、後進するときは「R」の位置にあることを確認してください。

操作時は常にブレーキを踏み、車両が停止しているときに行ってください。

◇ブレーキの効きを確認



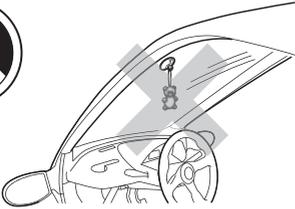
走行前にブレーキの効き具合を、低速で発進させて確かめてください。

慣れるまでに無理な走行は避け、車間距離を十分とってご使用ください。

◇インストルメントパネルの上に物を置かない——視界のさまたげになったり、走行中に動いて安全運転のさまたげになる恐れがあります。
トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに入れてください。

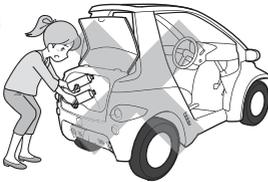


◇フロントガラス等に吸盤（透明）をつけない——吸盤がレンズの動きをして、火災になる恐れがあり危険です。



◇危険物の持ち込み禁止——

- トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに、燃料等の入った容器（ライター、カセットボンベ等）、スプレー缶類を収納しないでください。
万一のとき引火や爆発する恐れがあります。
- プラスチック素材の物、眼鏡等を収納しないでください。
変形・傷付き・ひび割れを起こす場合があります。



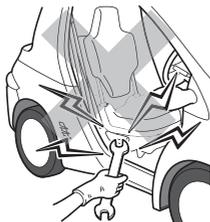
危険です！

- ◇ 2人以上で乗車しない ————— この車両は1人乗りですので、運転者以外（子供を含む）は同乗させないでください。



道路交通法に違反することはもちろん、運転者以外は体を固定する装置がないために走行中振り落とされる危険が考えられます。

- ◇ 高電圧部の点検整備 ————— コムスは DC72V の電源で走行する車両です。むやみに分解しないでください。感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。



点検整備はコムス販売店へご相談ください。

- ◇ 薬を飲んだとき ————— かぜ薬等の眠気を催すような薬を飲んだ後は、運転を避けてください。思わぬ事故を招きます。



- ◇ 運転席足元に物を置かない —————
- ブレーキペダルや、アクセルペダルに物が挟まるようなことがあると、ペダル操作ができなくなり、思わぬ事故につながる恐れがあります。
 - 社外品のフロアマットは敷かないでください。



- ◇ 駐車するときは ————— 無人で車が動き出す等の思わぬ事故につながる可能性がありますので、パーキングブレーキは確実にかけてください。タイヤの輪止めも効果的です。



◇衣服は体にフィットした物 ————— 走行中に衣服が、風等の理由で車外へ出ないものを着用してください。



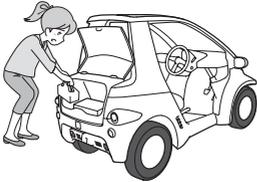
木の枝や、対向車両に引っかかり思いもよらないケガをすることがあります。また、長めのマフラー等が後輪に巻き込まれたりすると、重大な傷害を受ける恐れがあります。

◇高温部への接触禁止 ————— モーターおよび充電器・灯火器類等の高温になる部分には不用意に触れないでください。



コムの機器には、走行や充電により温度が高くなる部分があり、接触することにより火傷をする恐れがあります。

◇荷物は収納してください ————— 手荷物や荷物は、トランクボックスやデリバリーボックスまたは、各収納スペースに入れてください。荷物がはみ出したり、荷崩れしないように収納してください。



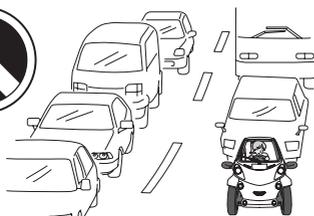
◇積載オーバーしない ————— 積載物の重量は、各車両に貼られている「使用上のご注意」ラベルに記載されている最大積載量以下にしてください。



ラベルの貼付位置は「2. 警告・使用方法ラベルの種類と貼付け位置」をご確認ください。車両の機能に影響し故障の原因になり、運転操作に支障をきたし事故を招く恐れがあり非常に危険です。

走行するときは！

◇道路交通法を守って



コムスで公道を走行するときは、一般乗用車と同じように、交通ルールを守って安全運転に心掛けてください。ただし、コムスは第一種原動機付自転車（四輪）ですので、自動車専用道路（高速道路等）の走行はできません。

◇シートベルトを必ず着用



シートベルトは正しく着用しないと、効果が十分発揮できなくなり、重大な傷害を受ける恐れがあります。正しい着座姿勢で正しく着用してください。シートベルト着用をご確認のうえ運転してください。

◇雨天時は速度を落とす



雨等で路面が濡れていると通常より滑りやすくなるので、速度は控えめに走行してください。また、冠水路等の深い水たまり（10cm以上）の走行は避けてください。機器への水入り等による車両故障につながる恐れがあります。
・ブレーキが濡れると、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。

◇転倒の危険にご注意ください



スピードが出すぎた状態で急ハンドルや急ブレーキをすると、転倒やスリップの恐れがあり非常に危険です。旋回する前に十分な減速（ブレーキング）をし、確実に安全なスピードで安全なハンドル操作で走行してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇横風が強いとき



横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握りスピードを落としてください。トンネル出口、橋の上等の横風が強い所での走行は十分に注意してください。

◇走行中、タイヤに異常



- 走行中にタイヤがパンク、バーストしたときには、徐々にスピードを落として安全な場所に停車してください。
- スペアタイヤおよびジャッキは搭載されていません。コム販売店などに連絡してください。

◇手足を車外へ出さない



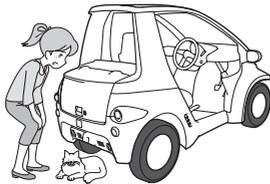
- 走行中はむやみに手や足等を車外へ出さないようにしてください。
- 木の枝や、対向車両に接触して思いもよらないケガをすることがあります。

◇充電コードは外す



- 走行するときは、必ず充電コードを外してください。
- 車両側に充電コードが接続されたまま走行するのは、ペダルを操作する際とても邪魔になります。
- 充電終了後はすぐにコードを100Vアース付きコンセント・車両側の充電コード差し込み口から抜くようにしてください。
- 充電コードは雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。

◇後退するとき



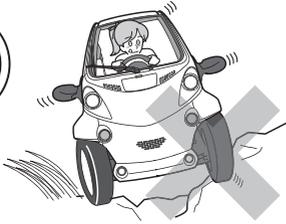
- サイドミラーだけでは確認できない死角がありますので、車両に乗り込む前に人や障害物がないことを確認してください。

◇滑りやすい路面は慎重に



- 濡れた路面・凍結路・積雪路等では速度を落とし、急加速・急ブレーキ・急ハンドルは避けてください。
- 横滑り・転倒等の思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇オフロードでの運転は避ける———オフロード（整備されていない荒れた路面）での運転は避けてください。



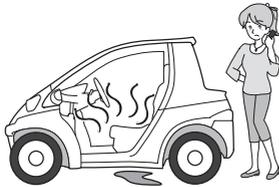
車両に思わぬ衝撃が加わり、車両が故障する恐れがあります。

◇縁石、段差のある場所は避ける———縁石、段差のある歩道に乗り降りする運転は避けてください。



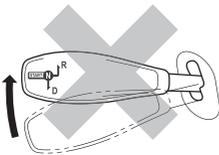
車両に思わぬ衝撃が加わり、車両が故障する恐れがあります。

◇走行中に異常があったら———床下に強い衝撃を受けたとき、異常音・異臭がする等コムスに異変を感じたときは、ただちに安全な場所に停車し、車両を点検してください。



液漏れや破損等が見つかった場合は、そのまま使用せずコムス販売店等に連絡ください。

◇下り坂では回生ブレーキを併用する———下り坂では、シフトレバーを「D」にしてください。



走行中にシフトレバーを「N」にしたり、キースイッチを「OFF」にすると、回生ブレーキが効かないため、停止距離が長くなり思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇下り坂でブレーキの効きが悪くなったら———下り坂でフットブレーキを多用すると、ブレーキが過熱し効きが悪くなります。



ブレーキの効きが悪いと感じたら、ただちに安全な場所に停車し、しばらくそのままにします。

ブレーキを冷却して、効きが回復してから走行してください。

◇クリープ現象に注意 ————— キースイッチが「ON」で、シフトレバーが「D」または「R」のとき、アクセルペダルを踏まなくても車両が動き出します。(クリープ現象) 停車中はしっかりブレーキペダルを踏むか、パーキングブレーキをかけてください。



◇上り坂では後退に注意 ————— ブレーキペダルからアクセルペダルに踏み変えたとき、一瞬後退する恐れがあるため、発進時はパーキングブレーキを併用してください。



◇急な坂道での発進は後退に注意 ————— 急な坂道での停止後に再発進する場合、発進できずに後退する場合があります。



坂道発進可能な最大角度：約 13° (約 23% 勾配)

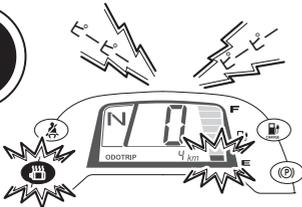
※装着オプション、路面状況、荷物や乗員の重さにより変動します。

◇スタック (立ち往生) したとき ————— スタックしたときは、タイヤを高速で回転させないでください。



タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱により思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇走行中に警告機能が働いたとき ————— 警告灯が点灯・点滅したり、警告ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、コムス販売店に連絡してください。



そのまま走行すると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

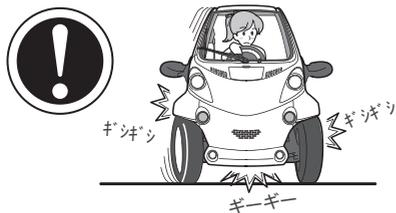
※バッテリー残量計が、2 目盛以下になると警告ブザーが鳴りますが、異常ではありません。

※速度が 70km/h を超えると警告ブザーがなります。この時に車両振動が発生する場合があります。60km/h 以下に速度を落としてください。

点検を受けてください！

以下の場合、速やかにコムス販売店で点検を受けてください。

- ◇ハンドル操作時に異音がするとき——ハンドル操作時に異音「ギーギー音、ギシギシ音等」がするとき、コムス販売店で点検を受けてください。



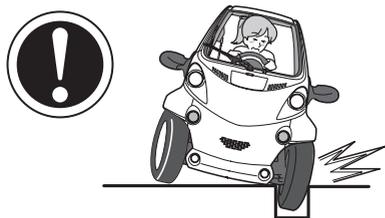
- ◇下回りを路面等に当たったとき——段差等で下回りにダメージを受けた場合は、コムス販売店で点検を受けてください。



- ◇事故により車両に強い衝撃を受けたとき——事故により車両に強い衝撃を受けたときは、修理しない場合でも、コムス販売店で点検を受けてください。



- ◇側溝などに脱輪したとき——側溝などに脱輪したときや、足回りにダメージを受けた場合は、コムス販売店で点検を受けてください。



長くお使いいただくためには！

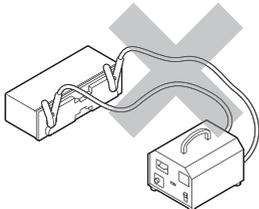
- ◇定期的な点検と整備 ————— 「日常点検」や12ヵ月および24ヵ月ごとに販売店が行う「定期点検」は欠かさず実施してください。点検を怠ると、故障や事故を招く恐れがあります。



- ◇違法改造はしない ————— 車両の構造や機能に関する改造や、トヨタ車体が指定する付属品以外の取り付けは、操縦性を悪化させたり、車の寿命を縮めることがあります。違法改造は、法律に触れることはもちろん、他の人や車の迷惑になります。さらに、改造による事故・損傷は保証対象外となります。



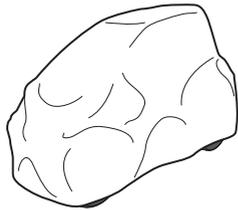
- ◇過充電・過放電はしない ————— バッテリーは、過充電・過放電（駆動：50V以下、補機：9V以下）をすることによって極端に寿命が短くなってしまいます。長期間使用せず放置したままだったり、付属の充電器以外で充電（急速充電）しないでください。充電は、通常は充電表示灯が緑色点滅になるまで行い、週に1度は緑色点灯になるまで行ってください。



- ◇タイヤは指定の物を ————— タイヤ交換は四輪とも同時に行い、指定サイズ、パターン（溝）のものを装着してください。摩耗差が大きかったり、指定のタイヤサイズと異なると車両性能を損なう原因になります。



- ◇保管について ————— コムスに乗らないときは、ボデーの変形・変色・制御機器の故障からコムスを守るために、風雨やホコリ、直射日光を避けて保管してください。合わせて、オプションのボディーカバーもご利用ください。



2. 警告・使用方法ラベルの種類と貼付け位置

本体には、安全にご使用いただくために「警告ラベル」・「使用方法ラベル」を貼付けてあります。ご使用される前に必ずご確認ください。

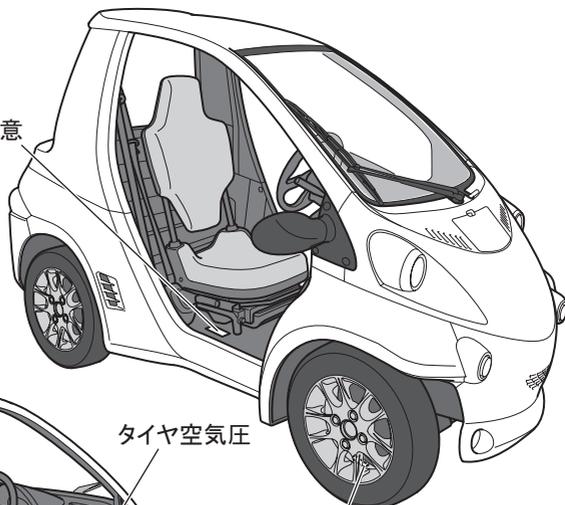
⚠ 注意

ラベル類の取り外し、作り変え等はしないでください。

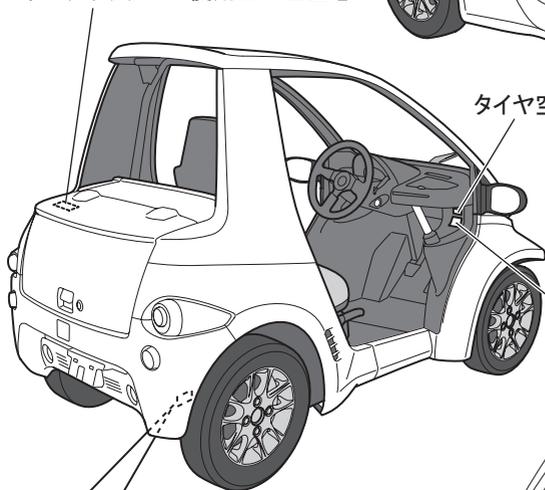
正規のラベルが貼られていないことにより、操作ミスを起こしたり、思わぬ事故の原因になる恐れがあります。

<P・COM>

！警告：高電圧のご注意



トランクボックスの使用上のご注意

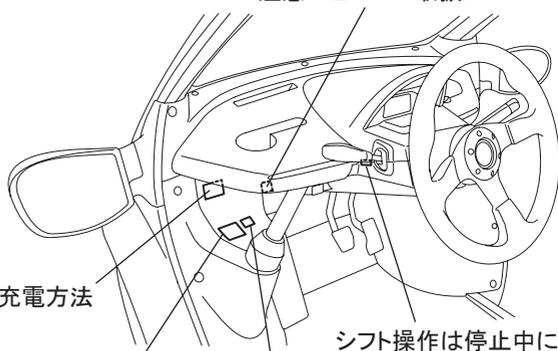


タイヤ空気圧

！警告：バランスウエイトの貼付について
(前輪・後輪すべて)

！警告：パーキングブレーキは必ずかける

！注意：ヒューズ取扱い

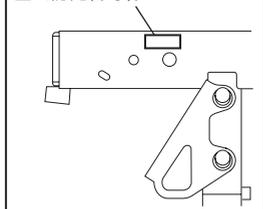


充電方法

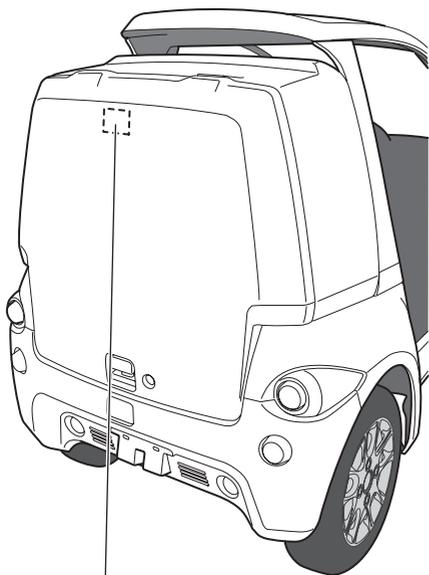
シフト操作は停止中に

！警告：充電作業 充電してください

型式認定番号標：フレーム No.



<B・COM デリバリー>



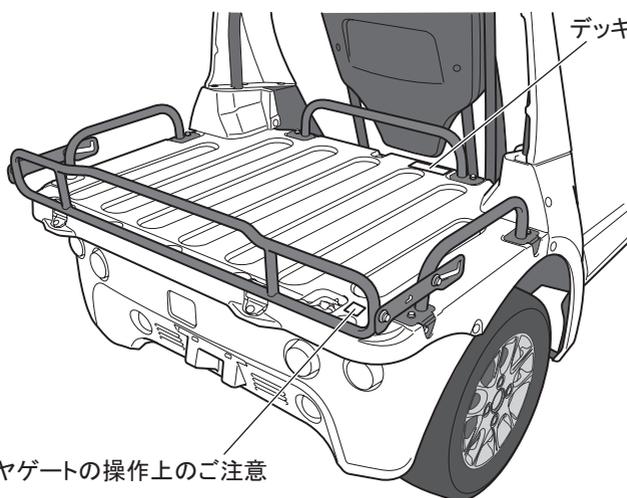
デリバリーボックスの使用上のご注意

<B・COM ベーシック>



リヤデッキの使用上のご注意

<B・COM デッキ>



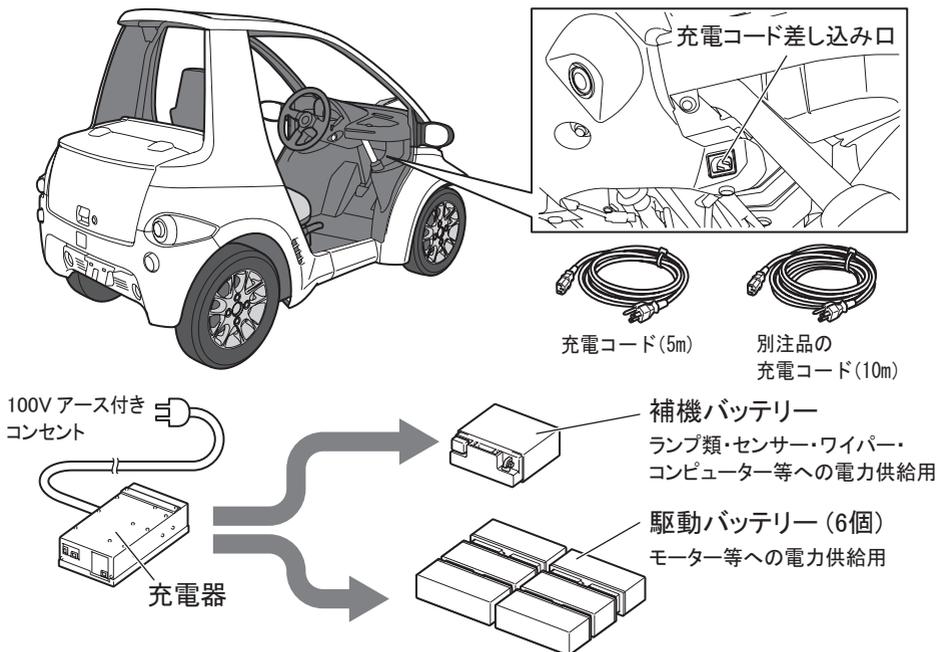
デッキの使用上のご注意

リヤゲートの操作上のご注意

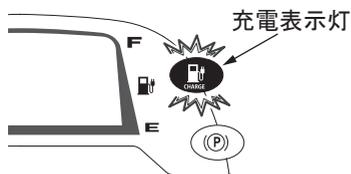
3. 充電について

(1) 充電に関する装備

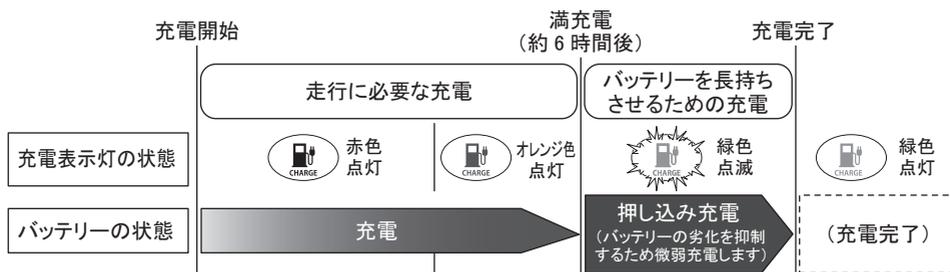
コムスには外部電源と車両を接続する充電コードが装備されています。
 充電コードを 100V アース付きコンセントに接続するとコムスに搭載されている充電器から、
 駆動バッテリー・補機バッテリーへの充電を行います。



(2) 充電表示灯について



- ・ 充電中は、充電表示灯の色と点灯状態で状況をお知らせします。
- ・ 充電表示灯が赤色点滅している時は充電していません。再度、コンセントの接続を行ってください。
- ・ コンセントを再接続しても、赤色点滅が解消されない場合はコムス販売店に連絡してください。
- ・ 充電表示灯が点灯しない場合は、充電コード・屋内遮断器の状況を確認してください。異常が見られない場合はコムス販売店に連絡してください。

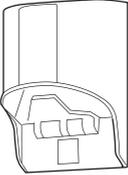
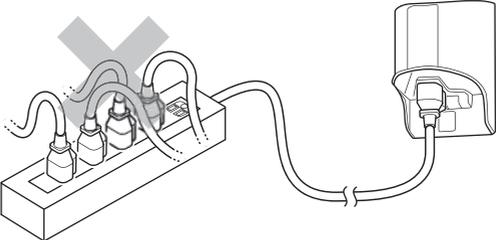
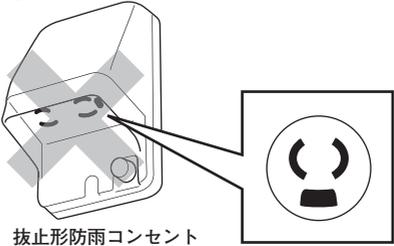


(3) 充電時の注意事項

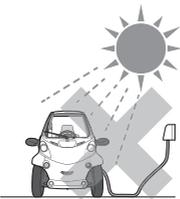
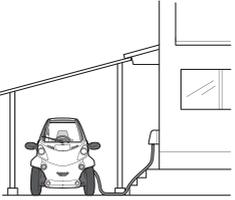
取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害に及ぶか、最悪の場合死亡につながる恐れがあります。

車両に充電コードを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。

◇電源に関して

 警告	<p>100V アース付きコンセントにつないで充電してください。 アース端子が接続されていないと感電の恐れがあります。</p>  <p>高負荷電動車両充電用コンセント (推奨) パナソニック製 WK4311 (100V)</p>
 警告	<p>必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。 ブレーカーおよび漏電遮断器が無い場合、感電、火災の原因となる恐れがあります。</p>
 警告	<p>コンセントはコムス1台の充電に使用し、他のコムスの充電や電気製品の接続によるタコ足配線はしないでください。 ブレーカーが作動したり、発熱による火災の原因になります。</p> 
 警告	<p>抜止形の防雨コンセント (100V) は頻繁な抜き差しに対する耐久性が不十分なため、使用しないでください。</p>  <p>抜止形防雨コンセント</p>

◇充電に関して

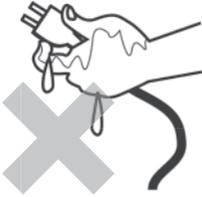
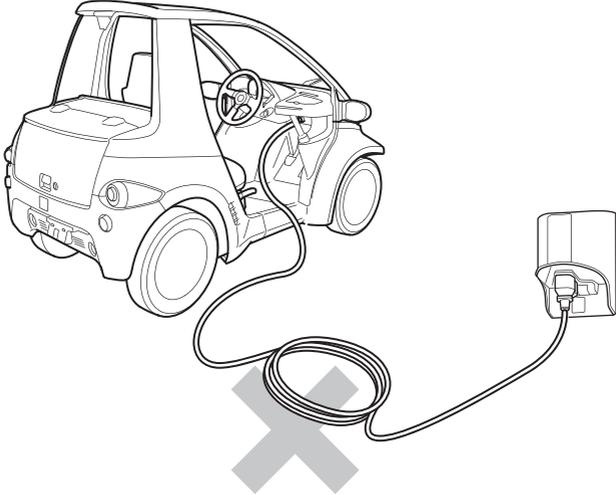
	<p>直射日光が当たる場所や高温のアスファルト上での充電は避けて、日陰で充電を行ってください。 高温環境下で充電をすると、バッテリーの寿命を縮める恐れがあります。</p> 
	<p>充電は屋根等があり、雨や雪がかからない所で行ってください。 機器が破損したり、バッテリーの寿命が短くなる場合があります。</p> 
	<p>充電コードはしっかりと奥の方まで差し込んでください。 緩んでいると機器の破損、または漏電による感電の恐れがあります。</p> 
	<p>落雷が予測されるときは充電コードをコンセントから抜き、充電しないでください。 落雷によって充電器等を破損する恐れがあります。</p> 
	<p>埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型両心室ペーシングパルスジェネレーターを装着されている方は、車両を充電するとき、充電コードに埋め込み部位を近づけないようにしてください。 充電により、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型両心室ペーシングパルスジェネレーターの作動に影響を与える恐れがあります。</p>

 警告	<p>充電中はイタズラされないようご注意ください。 思わぬ事故やケガ、またはコムの機器の故障原因になる恐れがあります。</p>
 注意	<p>充電コードを抜くときはプラグ部分を持って抜いてください。 コードを引っ張ると、中の線が切れて故障や事故の原因になります。</p>
 注意	<p>走行中には必ず充電コードは外してください。外さず差し込んだまま走行すると、ペダル操作の妨げになり、思わぬ事故につながる恐れがあります。</p>

◇外気温の影響に関して

 注意	<p>①夏場の高温時</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーの充電量が増加し、充電時間が長くなる傾向があります。 これはバッテリーが元々持つ特性であり、故障ではありません。 ●充電開始時または充電中にバッテリーの温度が約 55℃を超えた場合、充電システム保護のため、充電表示灯が赤色点滅して充電を行いません。 <p>【対応方法】 一旦充電コードを抜き、日陰などでバッテリーの温度を下げてから、再度充電コードを接続し、充電開始してください。</p> <p>②冬場の低温時</p> <ul style="list-style-type: none"> ●バッテリーから取り出せる電力量が低下し、走行距離が短くなる傾向があります。 これはバッテリーが元々持つ特性であり、故障ではありません。 ●充電開始時または充電中にバッテリーの温度が約 -35℃を下回った場合、充電システム保護のため、充電表示灯が赤色点滅して充電を行いません。 <p>【対応方法】 一旦充電コードを抜き、屋内などでバッテリーの温度を上げてから、再度充電コードを接続し、充電開始してください。 使用直後はバッテリー温度が外気温よりも高いため、バッテリーが冷える前に充電開始することをお勧めします。</p>
---	---

◇充電コードの取り扱いに関して

	<p>充電するには必ず専用の充電コードを使用してください。 離れた場所にあるコンセントから充電する場合は、別注品の充電コード（10m）をご利用ください。 市販の延長コードは使用しないでください。感電、火災の原因となる恐れがあります。</p>
	<p>手や充電コードが濡れているときには、乾いた布で水気を十分ふき取ってから使用してください。</p> 
	<p>充電コードは丁寧に扱い、深い傷や差し込み部分が変形・破損した場合は必ず交換してください。 そのまま使用すると感電の恐れがあります。</p>
	<p>充電コードを巻いた状態で使用しないでください。 発熱による火災の原因となる恐れがあります。</p> 
 注意	<p>使用しないときは、雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。</p>

(4) バッテリーを長持ちさせるための充電方法

① 満充電の状態を保つ

充電は走行終了後その日の内に開始し、少なくとも満充電（緑点滅）状態になるまでは充電してください。

充電せず放電したまま1日以上放置したり、満充電にならない状態で充電と走行を繰り返すとバッテリーの劣化を早めることとなります。

※上記に限らず、バッテリー残量計が2目盛になったり、補機バッテリー警告灯（補機バッテリー電圧低下）が点滅しましたら速やかに充電してください。

	時間																													
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23						
例①-1	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →					
例①-2	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →											

② 1週間に1回は押し込み充電を実施する

1週間に1回は充電完了（緑点灯）まで充電してください。（押し込み充電）

押し込み充電を実施することでバッテリーの劣化を抑制することが出来ますが、実施しないとバッテリーの劣化を早めることとなります。

※毎回、充電完了（緑点灯）まで押し込み充電しても問題ありません。

例②	時間																														
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23							
曜日	月	← 充電完了状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →					
	火	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →					
	水	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →					
	木	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 満充電まで充電 →						← 満充電状態 →					
	日	← 満充電状態 →						← 走行 →						← 走行 →						← 充電完了（緑点灯）まで充電（押し込み充電） →						← 充電完了状態 →					

③ 充電回数をなるべく少なくする

1日に数回走行する場合は、できるだけ最後の走行終了後に充電を実施してください。

走行終了の度に充電を実施すると、充電回数が増えバッテリーの劣化を早めることとなります。

※上記に限らず、バッテリー残量計が2目盛になったり、補機バッテリー警告灯（補機バッテリー電圧低下）が点滅しましたら速やかに充電してください。

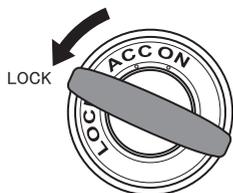
例③	時間																								
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
例③	← 満充電状態 →						← 走行 →	← 満充電まで充電 →	← 満充電状態 →																

チェックポイント

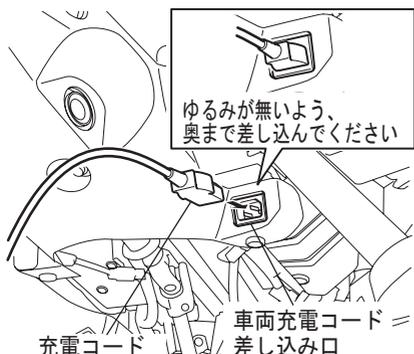
- ・長期間放置するときは充電し続けることは避け、1ヵ月に1回程度、充電表示灯が緑点灯になるまで充電するようにしてください。
適切なタイミングで充電を実施することで、過充電・過放電によるバッテリーの劣化を抑制します。
- ・外気温が低い（0℃以下）場合は、バッテリー温度が比較的高い走行直後に充電してください。
バッテリー温度が低い状態で充電すると、充電不足やバッテリーの劣化につながる恐れがあります。

(5) 充電の方法

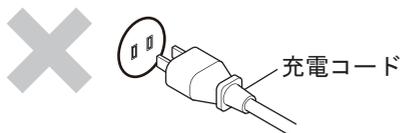
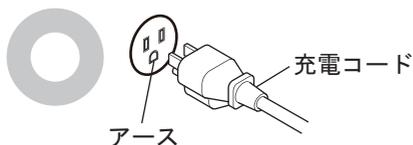
- 1) パーキングブレーキをかけてコムが動かないことを確認してください。
- 2) シフトレバーを「N（ニュートラル）」の位置にしてください。
- 3) キースイッチを「LOCK」の位置にしてキーを抜いてください。



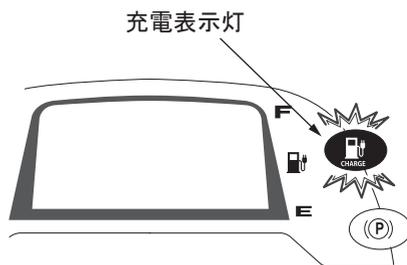
- 4) 車両付属の充電コードを車両充電コード差し込み口に接続します。



- 5) 充電コードを 100V アース付きコンセントに差し込みます。



- 6) 充電表示灯が赤色点灯し充電開始されたことを確認してください。



- 7) 充電表示灯が緑色点滅に変わった時点で満充電です。充電コードを差し込み口から抜いてください。充電表示灯が消灯します。
- 8) 充電が終わった後は充電コードを雨露にさらされない場所（屋内など）で保管してください。

※充電表示灯に関する詳細は項目 3-(2) 充電表示灯についてを参照ください。

チェックポイント

- ・ 充電中はキースイッチ、ホーン、非常点滅灯スイッチ、ブレーキペダル等を操作しないでください。充電を中断（充電エラー）することがあります。
- ・ 充電コードを接続している間は「ブーン」という音がしますが、充電器の冷却ファンの作動音であり、異常ではありません。
- ・ 充電時間は充電開始時のバッテリー残量によって異なります。

(6) バッテリーについて

◇管理上の注意点

- 過放電をしないためにも、充電のタイミングは守って充電を行ってください。放電したまま放置すると、バッテリーの劣化を早めることになります。
- 充電するときは、充電表示灯が緑色点滅になるまで継続するようにしてください。充電の中断（赤色点灯、オレンジ色点灯）を連続して行い走行すると、バッテリーの劣化を早めることになります。
- バッテリーが過放電（駆動用：50V 以下、補機用：9V 以下）になることにより、走行・充電が不可能になります。
一度過放電になったバッテリーは新しいものと交換してください。
- キースイッチが「OFF」の状態、長時間ハザードランプ点滅やブレーキランプの点灯を続けると補機バッテリーが上がり、走行・充電ができなくなります。
また、一度あがったバッテリーは劣化していますので、補機バッテリーの交換をしてください。

◇バッテリーの交換

バッテリーは使用経過と共に性能が低下していきます。性能が低下したときはバッテリーを交換してください。また、駆動バッテリーは6個全てを同時に交換してください。

注意

- ・ コムスに搭載の駆動バッテリー、補機バッテリーは専用品です。
専用品以外のバッテリーは使用しないでください。（保証の対象外です）
点検整備、および交換等はコムス販売店へおまかせください。
- ・ 種類、容量の違うバッテリーに交換すると、故障や事故・火災等の原因となります。
- ・ コムスに搭載されている専用充電器以外は使用しないでください。
バッテリーが故障する恐れがあります。

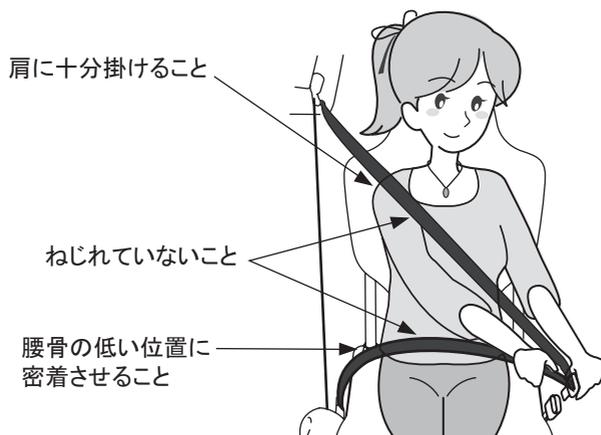
危険

コムス販売店の行う定期点検時以外は、バッテリーのカバーを外さないでください。
高電圧ケーブル（72V）が配線されており、感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。

4. 安全装置（シートベルト）

◇正しい着用

シートベルトは正しく着用しないと効果が半減したり、危険な場合があります。次の使用方法にしたがって走行前に運転者は必ず着用してください。



⚠ 危険

- コムスに乗る場合は、必ずシートベルトを着用してください。ベルトを着用しないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- シートベルトを着用するときは必ず次のことをお守りください。守らない場合、衝突したときなどにシートベルトが十分な効果を発揮せず、重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
 - ・ シートベルトは上体を起こして、シートに深く腰をかけた状態で着用してください。
 - ・ 3点式シートベルトの肩ベルトは、首に掛かったり脇の下を通らせたりして着用しないでください。必ず、肩に十分掛かるように着用してください。
 - ・ シートベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させて着用してください。シートベルトが腰骨から外れていると衝突時、腹部等に強い圧迫を受ける恐れがあります。
 - ・ シートベルトはねじれが無いように着用してください。ねじれていると、衝突したときなどに受ける衝撃を十分に分散させることができません。
 - ・ シートベルトを着用するときは、たるみを付けないようにしてください。
 - ・ ハンドルや前方（インストルメントパネル）に必要以上に近づいて運転しないでください。
- シートベルトのバックルには異物が入り込まないようにしてください。異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらない場合があり、衝突時に十分な効果が発揮されず、重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- ほつれや、擦り切れができたり、正常に作動しなくなったシートベルトはすぐに交換してください。また、事故により強い衝撃を受けたり、傷の付いたシートベルトはすぐに新品と交換してください。そのまま使用すると十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。
- シートベルトの改造や取り付け、取り外しなどをしないでください。衝突などのとき、十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。取り外しや、交換はコムス販売店にご相談ください。
- シートベルトの清掃にベンジンやシンナーなどの有機溶剤を使用しないでください。また、漂白したり染めたりしないでください。シートベルトの性能が落ち、衝突時に十分な効果を発揮せず重大な傷害を受ける恐れがあり危険です。清掃するときは、中性洗剤かぬるま湯を使用し、乾いてからお使いください。

◇3点式シートベルト

身体の動きに合わせて伸縮しますが、強い衝撃で身体が前に倒れそうなどときには、ベルトが自動的にロックされ身体を固定します。

- 1) シートに深く腰をかけ、背もたれから背を離さない状態で座ります。
- 2) プレートを持って引き出し、ねじれていないことを確かめます。
シートベルトがロックしたまま引き出せないときは、一度ベルトを緩め、再度ゆっくりと引き出します。



- 3) プレートを“カチッ”と音がするまでバックルに差し込みます。
- 4) 腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にかかるとし、肩部ベルトを引き、腰部に密着させます。
- 5) 肩ベルトは必ず肩に掛かるようにします。
- 6) 外すときはバックルのボタンを押します。



チェックポイント

外したときにプレートが勢いよく飛び出してくる恐れがあるため、プレートをしっかり持ってゆっくり戻してください。

* コムスに乗らないときは、バックルにプレートを差しておくことをお勧めします。バックルへの異物の入り込み防止になります。

◇妊娠中の方もシートベルトを着用してください

妊娠中の方も下記の要領でシートベルトを着用してください。

警告

万一のとき、腹部等に強い圧迫を受ける恐れがありますので、シートベルト着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

- 腰ベルトは、必ず腰骨のできるだけ低い位置、お腹の膨らみの下に密着させて着用してください。
腰ベルトが腰骨からずれていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、ケガをする恐れがあります。
- 肩ベルトは、お腹の膨らみを避け必ず胸部に着用してください。
肩ベルトを腹部にかけていると、衝突したときなどに腹部に強い圧迫を受け、ケガをする恐れがあります。



◇疾患のある方もシートベルトを着用してください

疾患のある方も、万一のときのために、シートベルトを着用してください。

警告

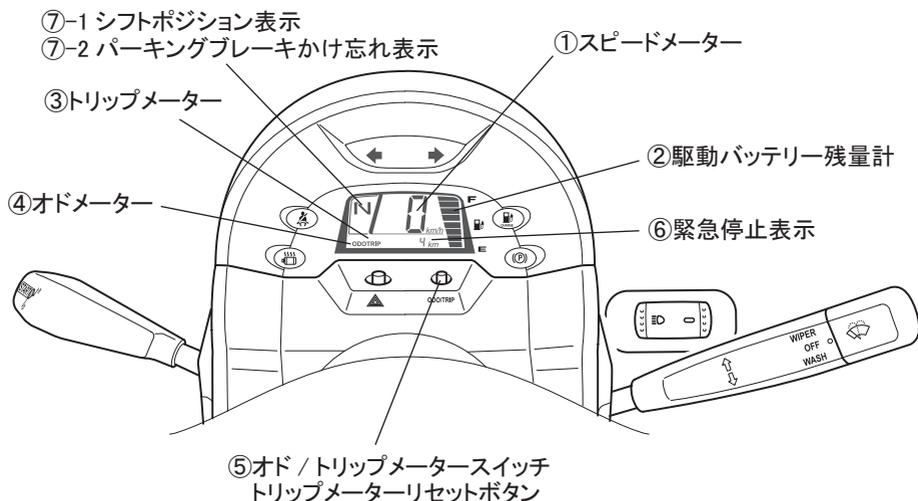
万一のとき、局部的に強い圧迫を受ける恐れがありますので、シートベルト着用については、医師にご相談のうえ、注意事項を確認してください。

チェックポイント

シートベルトがロックしたまま引き出せないときは一度ベルトを強く引いてからベルトを緩め、再度ゆっくりと引き出します。

5. 操作装置

(1) メーターの見方



チェックポイント

メーターパネルには硬い物を当てたり、むやみにこすらないでください。汚れたときは柔らかい布で拭いてください。

① スピードメーター

車両の走行速度を「km/h」の単位で表示します。

② 駆動バッテリー残量計

キースイッチが「ON」のときに、駆動用バッテリーの残量を8目盛で表示します。電欠時には残量が0目盛になります。

③ トリップメーター (TRIP)

リセット後の走行した区間距離を「km」の単位で表示します。最大値は999.9kmとし、超えた場合は0クリアとなります。

④ オドメーター (ODO)

走行した総距離を「km」の単位で表示します。最大値は99999kmとし、超えた場合は0クリアとなります。

⑤ オド/トリップメータースイッチ トリップメーターリセットボタン

ボタンを押すごとに次のように表示が切り替わります。

走行距離が 10万km未満の場合	走行距離が 10万km以上の場合
オドメーター (ODO) ←	オドメーター (ODO) ←
↓	↓
トリップメーター (TRIP)	10万km超え表示 ※
	トリップメーター (TRIP) ←

※ 10万km以上20万km未満 「_1」
20万km超え 「_2」

* トリップメーターを“0”表示に戻すときには、トリップメーターを表示させた状態でボタンを2秒ほど押し続けます。

⑥ 緊急停止表示

緊急停止時に "Error" を表示します。

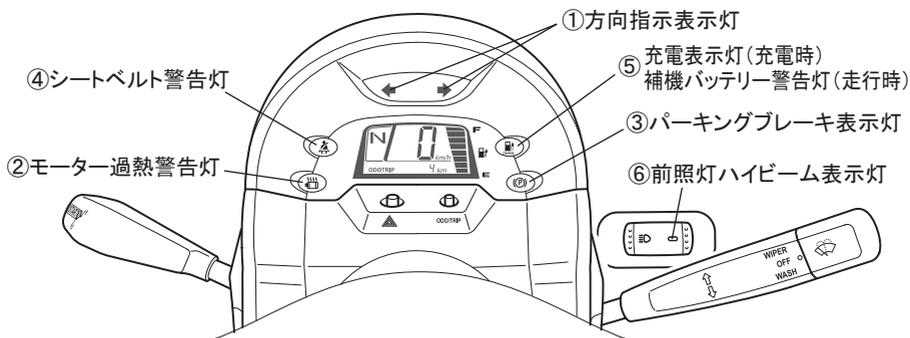
⑦-1 シフトポジション表示

選択しているシフト位置を表示します。

⑦-2 パーキングブレーキかけ忘れ表示

駐車するためキースイッチを「ON」から「ACC」または「OFF」に回した時にパーキングブレーキがかけられていない場合、P点滅を表示します。

(2) 表示灯・警告灯の見方



① 方向指示表示灯

方向指示灯／非常点滅灯を作動させると点滅します。

チェックポイント

点滅が異常に早くなったときには、方向指示灯の電球切れが考えられます。方向指示灯が正常に点滅しているか確認してください。

② モーター過熱警告灯

モーター・インバーターの温度上昇を検出したときや、タイヤが固定された状態でアクセルペダルが踏み込まれたことを検出したときに点滅・点灯します。

チェックポイント

モーター過熱警告灯が点滅・点灯したときは、風通しが良く他の通行車両に対し安全なところで冷却させ、キースイッチを差し直し再び「ON」にすると走行します。連続してこの現象が発生した場合は、お近くのコムス販売店へご相談ください。

③ パーキングブレーキ表示灯

パーキングブレーキレバーを引くことにより点灯します。

④ シートベルト警告灯

シートベルト装着忘れ防止警告灯です。

⑤ 充電表示灯（充電時）

充電コードで、100Vアース付きコンセントに接続されることによって点滅・点灯します。

充電中はランプが点滅・点灯して、色で充電状態を示します。充電コードを抜くと消灯します。

* 充電表示灯の色と、点灯・点滅のタイミングは次の通りです。

・赤色点灯

充電が開始されたことを示します。

・オレンジ色点灯

充電が順調に行われていることを示します。

・緑色点滅

満充電です。
※走行に必要な充電です。

・緑色点灯

充電完了です。
※満充電＋バッテリーを長持ちさせるための充電です。

・補機バッテリー警告灯（走行時）

補機バッテリー電圧が低下している時に点滅します。
点滅したときは、速やかに充電してください。

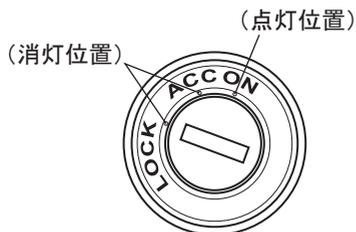
⑥ 前照灯ハイビーム表示灯

前照灯をハイビームにすると青色点灯し、ロービームにすると消灯します。

(3) 視界の確保

◇前照灯スイッチ (キースイッチ)

キースイッチ「ON」で前照灯が点灯して、「LOCK」または「ACC」で消灯します。



◇前照灯 切替スイッチ

キースイッチ「ON」(前照灯が点灯している状態)で前照灯 切替スイッチのスイッチ照明(前照灯マーク)が点灯します。

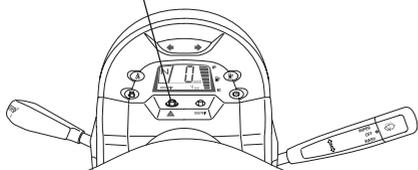


◇非常点滅灯スイッチ

故障等でやむを得ず、路上駐車する場合、他車に知らせるために使用します。

- スイッチを押すと全ての方向指示灯とメーター内にある方向指示表示灯も点滅します。
- もう一度押すと消灯します。

非常点滅灯スイッチ

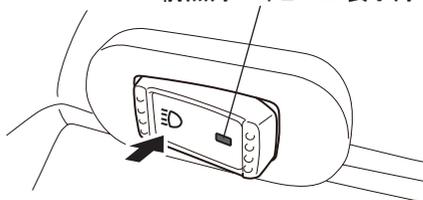


- * 不必要に点灯を続けると補機バッテリーがあがり、走行・充電できなくなりますのでご注意ください。

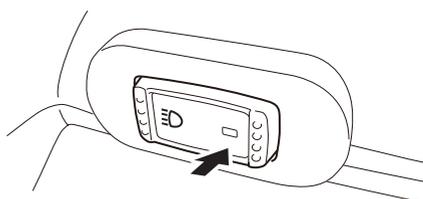
前照灯 切替スイッチを操作すると、前照灯がハイビームとロービームに切り替わります。

- 左側を押すとハイビームになります。(前照灯ハイビーム表示灯が青色点灯します。)

前照灯ハイビーム表示灯

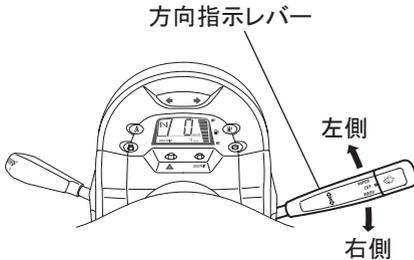


- 右側を押すとロービームになります。(前照灯ハイビーム表示灯が消灯します。)



◇方向指示レバー

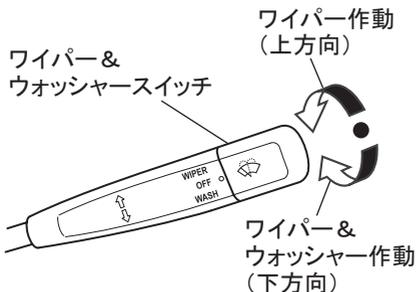
- レバーを上へ操作すると左側、下へ操作すると右側の方向指示灯が点滅します。また、メーター内の方向指示表示灯も点滅します。
- レバーはハンドルを戻すと自動的に戻ります。戻らないときには手で戻してください。



◇ワイパー＆ウォッシャースイッチ

方向指示レバー先端部にワイパー＆ウォッシャースイッチがあります。

- 上方方向に回すとワイパーが作動します。
- 下方方向に回すと、回している間ウォッシャー液が噴射され、ワイパーが連動します。

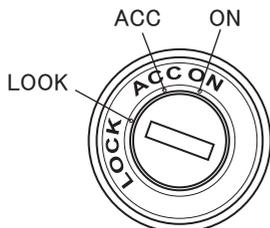


チェックポイント

- 走行中に汚れを落とすときは、必ずウォッシャー液を使用してください。フロントガラスが乾いているときにワイパーを作動させると、フロントガラスを傷付けることがあります。
- ウォッシャー液が出ないとき、スイッチを回し続けるとポンプが故障する恐れがあります。液量や、ノズルの詰まりを点検してください。
- 寒冷時は、ウォッシャー液がフロントガラスに凍り付き視界不良をおこす恐れがあります。

(4) 運転装置

◇キースイッチ（前照灯スイッチ）



[各位置の働き]

- **LOCK** : キーを抜き差しできる位置。
キーを抜きハンドルを回すとハンドルがロック状態になります。
- **ACC** : けん引時に使用します。
- **ON** : 走行可能状態になり、スピードメーター表示、前照灯などのライト類が点灯します。

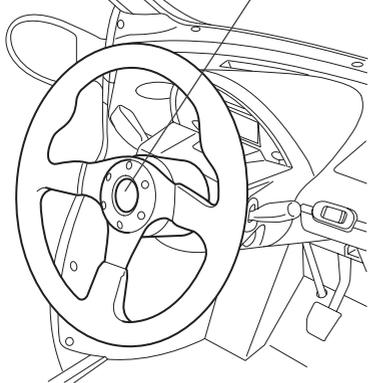
チェックポイント

キースイッチを「LOCK」から「ON」方向へ回す際、キーが回りにくいときがあります。そのときは、ハンドルを左右に振りながらキーを回してください。

◇ホーンスイッチ

キースイッチが「ON」のとき、ハンドル中央のスイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

ホーンスイッチ

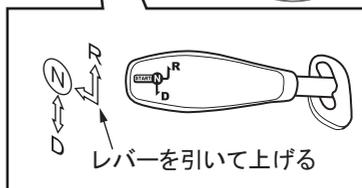
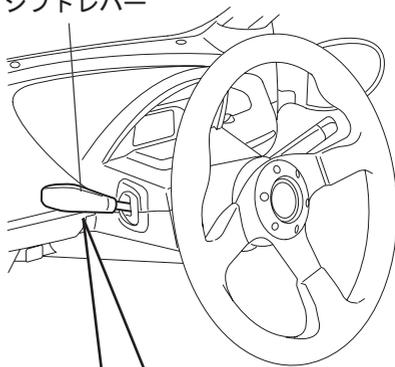


◇シフトレバー

[各位置の働き]

- **R**（リバース）：後退走行のときのレンジです。
“ビー、ビー、ビー”とブザーが鳴り、レンジが「R」であることを運転者に知らせます。
- **N**（ニュートラル）：駐車、停車するときのレンジです。
- **D**（ドライブ）：前進走行のときのレンジです。

シフトレバー



チェックポイント

- 走行可能状態で3分間レンジを「N」から動かさないときは、節電機能が働き電源が切れます。そのとき、電源の切れる前30秒間、警告として断続ブザーが鳴ります。復帰はキースイッチを入れ直してください。
- シフトレンジが今の位置にあるかを、スピードメーターパネル内に「R・N・D」で表示します。
- コムスのシフトチェンジは一般乗用車と違います。シフトレンジを「R」または「D」にして、キーを抜いても車輪は固定されていないため、回転します。
駐・停車時は、パーキングブレーキを使用するように習慣付けてください。

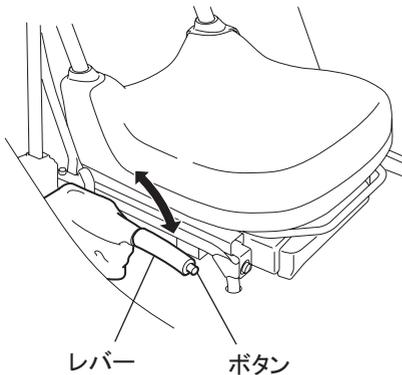
◇パーキングブレーキ

・駐車するときは

ボタンを押さずにレバーをいっぱいまで引きます。

・もどすときは

レバーを少し引き上げながら、先端のボタンを押さえてもどします。
パーキングブレーキが解除されると、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が消えるので確認してください。



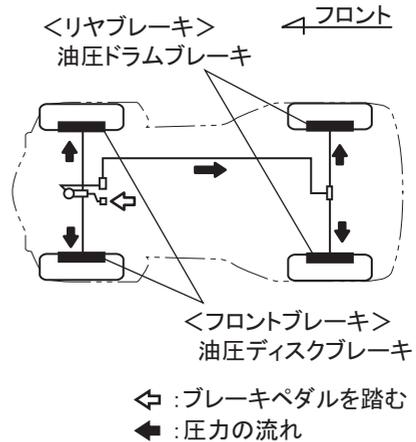
⚠ 警告

パーキングブレーキ表示灯が消えていることを確認してから、走行してください。パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキが早く消耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなる恐れがあります。また、モーターやインバーターに負荷が加わり過熱して故障する恐れがあります。

◇ブレーキ

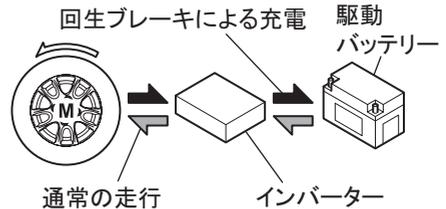
ブレーキは前輪ディスクブレーキ、後輪ドラムブレーキを採用しています。また、補助的減速装置として回生ブレーキ（エネルギー回生機能）があり、アクセルペダルを緩めることによって作動し、ブレーキペダルを踏むことによってさらに回生させ減速を補助します。

・ブレーキの仕組み



・回生ブレーキとは

エネルギー回生機能ともいいますが、補助的に作動する減速機能です。タイヤの回転をモーターが発電機となって電気に変換し充電します。



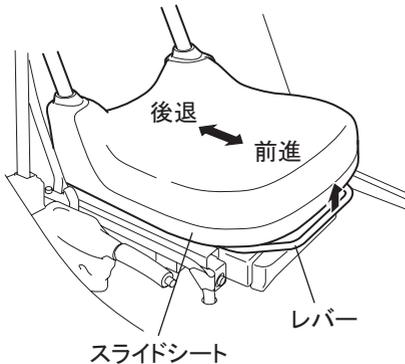
チェックポイント

満充電およびシフトレバーが「N」のときは、回生ブレーキ（エネルギー回生機能）が働きません。

◇スライドシート

正しい運転姿勢がとれるよう、シートをスライドさせ調節してください。

- レバーを引き上げたままシート位置を前後に調節してください。
- レバーから手を離し、シートを軽く前後に揺すって確実に固定されていることを確認してください。



チェックポイント

次の事項に注意してシート位置を調整します。

- ハンドルが楽に操作できること。
- 各ペダルが十分踏み込めること。
- シートベルトが正しく装着できること。
- 背もたれから背を離さないこと。

⚠注意

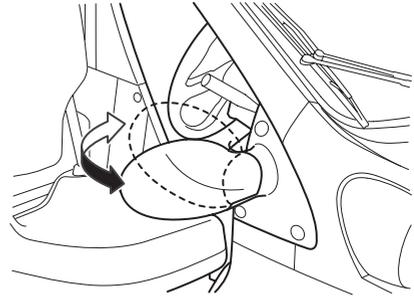
- シート位置を調整しているときは、シートの下や動かしている部分の近くに手を近づけないでください。
指や手をはさみ、ケガをする恐れがあります。
- シートの前後調整は、走行する前（停車中）に行ってください。
走行中にシートをスライドさせると、思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇サイドミラー

後方がはっきり確認できるように調節してください。

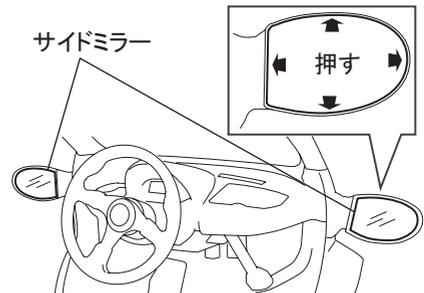
<格納のしかた>

サイドミラーは後方に倒して格納することができます。
走行するときは、必ず元に戻してください。



<調節のしかた>

サイドミラーのミラー部外周を押して調節してください。



チェックポイント

調節はシートに座って、ミラーに映る後方の視界を確認しながら行ってください。

⚠注意

ミラーの調節は、走行する前（停車中）に行ってください。
走行中に調節すると前方不注意となり危険です。

6. 快適装備

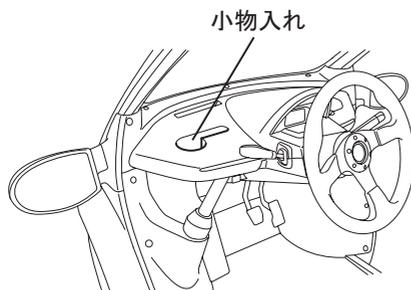
(1) 収納装備

⚠️ 注意

- 各収納部に燃料等の入った容器（ライター、カセットボンベ等）、スプレー缶類を収納しないでください。万一のときに引火や爆発する恐れがあります。
- プラスチック素材の物、眼鏡等を収納しないでください。変形・傷付き・ひび割れを起こす場合があります。

◇小物入れ

インストルメントパネル左側にあります。

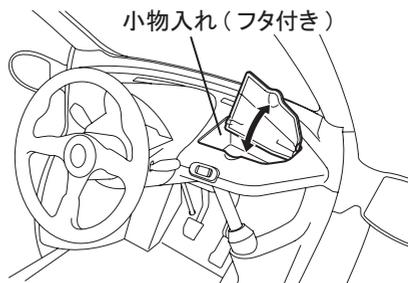


⚠️ 注意

小物入れ内に転がりやすい物や凹面より高さのある物を収納しないでください。急ブレーキ、急旋回したときなどに収納物が飛び出し思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇小物入れ（フタ付き）

インストルメントパネル右側にあります。

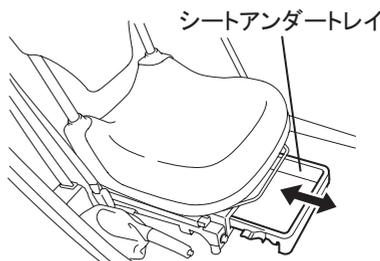


⚠️ 注意

フタは必ず閉めてください。フタが開いたまま走行すると、ブレーキをかけたときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇シートアンダートレイ

シート下にあります。引き出してお使いください。



⚠️ 注意

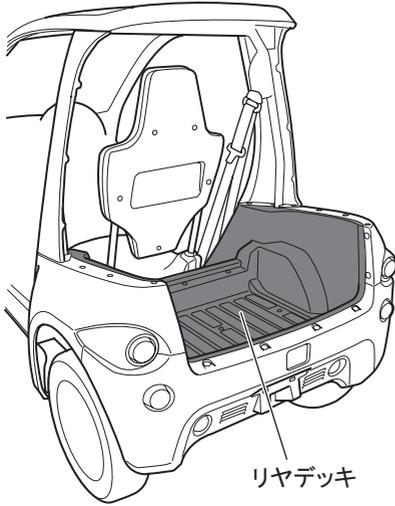
- 引き出したトレイを戻すときは、最後まで確実に押し込んでください。トレイが出たまま走行すると、ブレーキをかけたときなどに収納物が飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- トレイからはみ出るほど物を入れしないでください。運転のさまたげになり、思わぬ事故につながる恐れがあります。また、シートスライドレバーが操作できなくなったり、収納した物が取り出せなくなる恐れがあります。

(2) その他の装備

◇リヤデッキ

(B・COMベーシック仕様)

荷物等をリヤデッキに収納してください。



チェックポイント

30kg を超える荷物を収納しないでください。

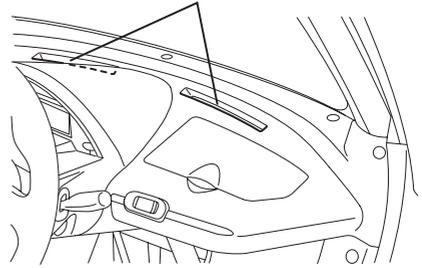
⚠ 注意

荷物は動かないように、収納してください。
荷物が動き、破損する恐れがあります。
また、荷物が走行中に飛び出し思わぬ事故
につながる恐れがあります。

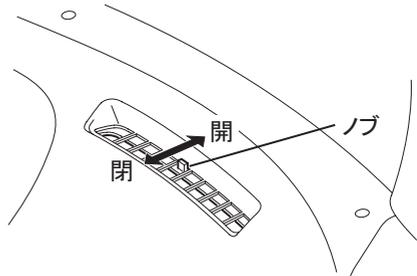
◇外気導入ダクト

インストルメントパネル上面前側に外気導入ダクトがあります。

外気導入ダクト



吹き出し口のノブをスライドすることにより、吹き出し口を開閉することができます。

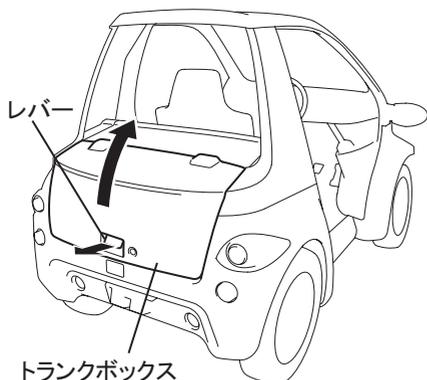


(3) 車両仕様別装備

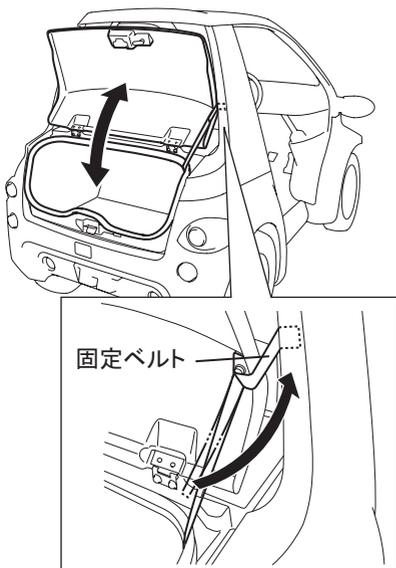
◇トランクボックス (P・COM仕様)

バッグ、手荷物等をトランクボックスに収納してください。

- ・ 鍵を開け、レバーを引いて開けます。



- ・ 全開にして固定ベルトの面ファスナーで止めてください。
- ・ 扉を閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉め、鍵を掛けてください。



チェックポイント

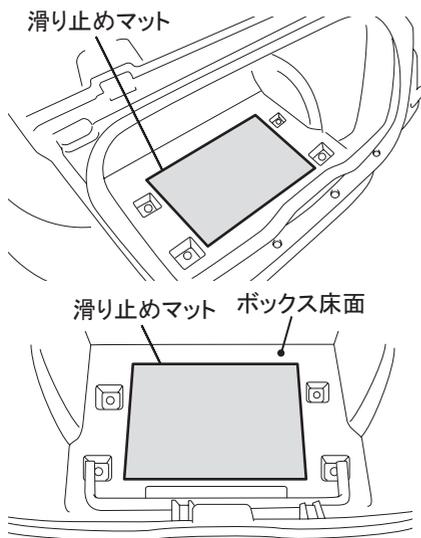
- ・ 付属の滑り止めマットを活用ください。使用方法はP.34を参照ください。
- ・ 荷物は動かないように、収納してください。トランクボックス内で荷物が動き、破損する恐れがあります。
- ・ 45kgを超える荷物を収納しないでください。
- ・ 扉の上に物を置かないでください。トランクボックスが破損する場合があります。
- ・ トランクボックスに荷物を入れたまま洗車(水洗い)をしないでください。荷物が濡れる恐れがあります。
- ・ 雨天時に長時間放置すると、トランクボックス内の荷物が湿る恐れがあります。荷物は取り出しておいてください。

▲ 注意

- ・ トランクボックスの扉を開けたまま走行しないでください。走行中に荷物が外に飛び出し、重大な事故を招く恐れがあります。扉を閉め、鍵を掛けてから走行してください。
- ・ 扉は必ず全開にして固定ベルトを止めてください。風におおられ、急に閉まったりして思わぬ事故を招く恐れがあります。
- ・ 扉を閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

◇ 滑り止めマット

本製品はボックス内の荷物積載用です。
ボックス床面に敷いてご使用ください。



▲ 注意

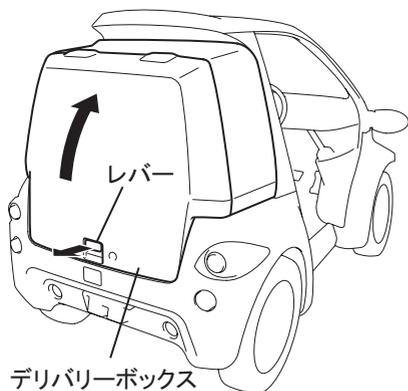
- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 本製品は、上に載せた物が滑ったり、ずれたりすることを完全に防ぐものではありませんので、ご注意ください。
- 濡れている場所、チリやホコリの多い場所では効果が減少します。敷く前に掃除を行い、掃除したあとの洗剤、水分などをふき取り十分に乾燥させてから敷いてください。
- 直射日光の当たる所、火のそばに置かないでください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。

◇デリバリーボックス

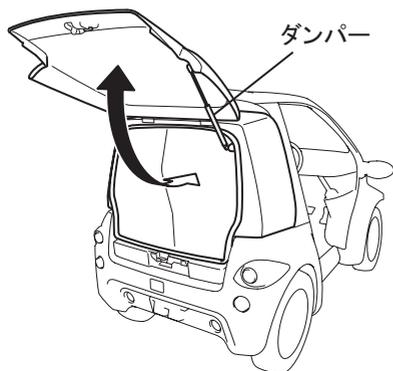
(B・COMデリバリーボックス仕様)

荷物等をデリバリーボックスに収納してください。

- 鍵を開け、レバーを引いて開けます。



- 扉を閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉め、鍵を掛けてください。



チェックポイント

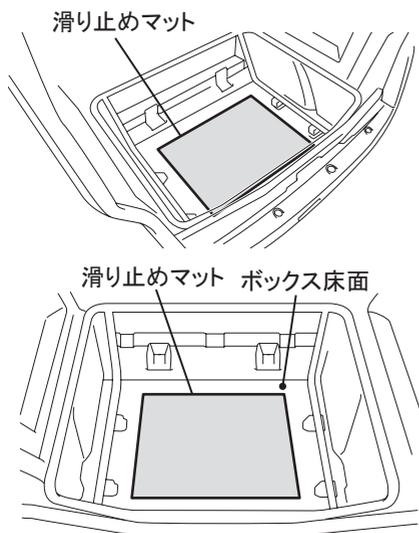
- 付属の滑り止めマットを活用ください。使用方法はP.36を参照ください。
- 荷物は動かないように、収納してください。デリバリーボックス内で荷物が動き、破損する恐れがあります。
- 背の高い荷物および30kgを超える重量物は仕切り板を外して収納してください。また、重量物の推奨固定方法については、P.36を参照ください。
- 45kgを超える荷物を収納しないでください。
- 扉の上に物を置かないでください。デリバリーボックスが破損する場合があります。
- デリバリーボックスに荷物を入れたまま洗車（水洗い）をしないでください。荷物が濡れる恐れがあります。
- 雨天時に長時間放置すると、デリバリーボックス内の荷物が湿る恐れがあります。荷物は取り出しておいてください。
- 扉のダンパーに物を掛けたり、寄りかかったり（横向きに力を掛けない）しないでください。

▲注意

- デリバリーボックスの扉を開けたまま走行しないでください。走行中に荷物が外に飛び出し、重大な事故を招く恐れがあります。扉を閉め、鍵を掛けてから走行してください。
- 扉は必ず全開にしてください。途中で止めると突然、閉まったりすることがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まる恐れがあります。
- 扉を閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

◇滑り止めマット

本製品はボックス内の荷物積載用です。
ボックス床面に敷いてご使用ください。



▲注意

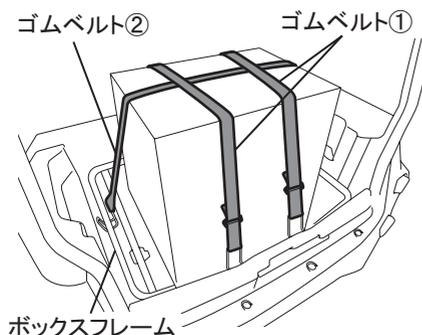
- 本来の用途以外には使用しないでください。
- 本製品は、上に載せた物が滑ったり、ずれたりすることを完全に防ぐものではありませんので、ご注意ください。
- 濡れている場所、チリやホコリの多い場所では効果が減少します。敷く前に掃除を行い、掃除したあとの洗剤、水分などをふき取り十分に乾燥させてから敷いてください。
- 直射日光の当たる所、火のそばに置かないでください。
- お子様の手の届かない場所に保管してください。

チェックポイント

■重量物の推奨固定方法

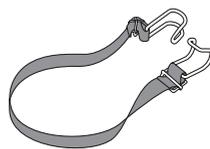
重量物運搬の際は荷物の滑り防止のため市販のゴムベルトを使用し、ボックスフレームにフックを掛けて荷物が動かないように固定を行い走行してください。

(重量物固定例)



(推奨固定ベルト仕様)

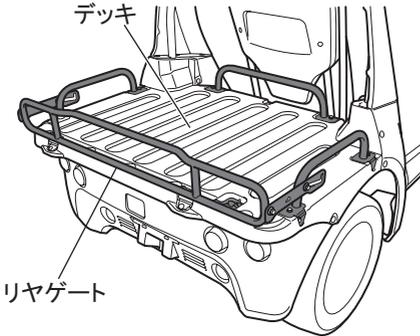
- ゴムベルト①(2本)
端末仕様：両側フック
ゴムベルトサイズ
長さ 800mm
幅 30mm
厚さ 3mm
- ゴムベルト②(1本)
端末仕様：両側フック
ゴムベルトサイズ
長さ 1100mm
幅 30mm
厚さ 3mm



◇デッキ

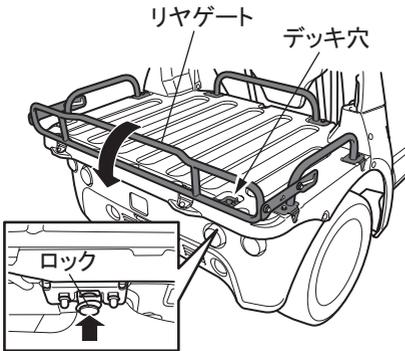
(B・COMデッキ仕様)

荷物等をデッキに積載してください。



荷物の積み下ろしをするときは、リヤゲートを開けて積み下ろしをしてください。

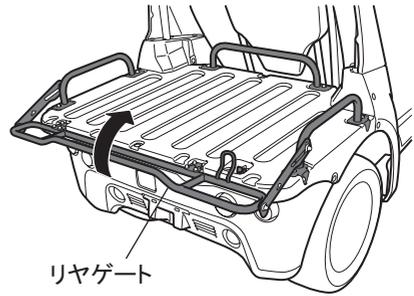
- リヤゲートのロックを解除し、リヤゲートを開きます。



▲注意

手をケガする恐れがありますので、リヤゲート操作時、誤ってデッキ穴に手を入れないでください。

- リヤゲートを閉めるときは、「カチッ」と音がするまで確実に閉めてください。



チェックポイント

90kg を超える荷物を積載しないでください。

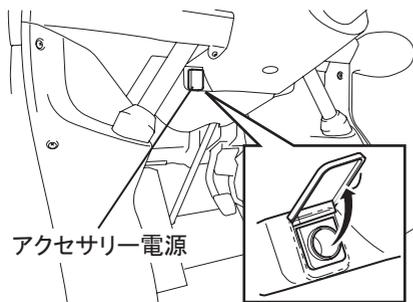
▲注意

- 荷物は動かないように、積載・固定してください。
荷物が動き、破損する恐れがあります。
また、荷物が走行中に飛び出し、思わぬ事故につながる恐れがあります。
- リヤゲートを開閉するときに、リヤゲートのパイプで手等を挟まないように注意してください。

(4) オプション部品

◇アクセサリ電源 (オプション)

キースイッチが「ON」のときに使用できます。フタを開け、プラグタイプの電気製品の電源としてご使用ください。



チェックポイント

- ・必ず、12V10W以下の電気製品をご使用ください。それ以上の容量の電気製品を使用すると、ヒューズが切れる恐れがあります。
- ・この電源ソケットは、シガーライターを差し込んで使用するようには設計されておりません。

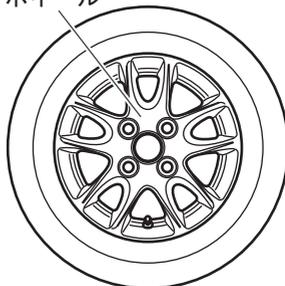
⚠ 注意

使用しないときは、必ずフタをしてください。ゴミ、金属片、水等の異物が入ると、火災やショートの原因となる恐れがあります。

◇アルミホイール (オプション)

アルミホイールは専用意匠を設定しました。

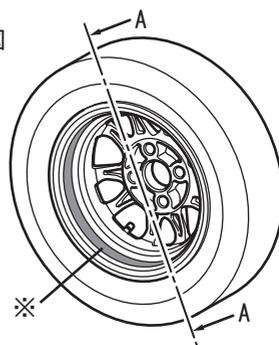
アルミホイール



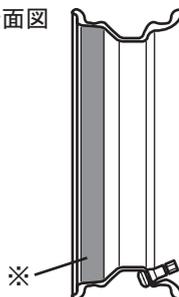
＜バランスウエイトについて＞

※部には、バランスウエイトを貼り付けないでください。

裏面図



A-A 断面図



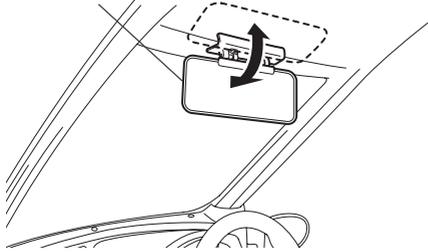
⚠ 注意

- ・トヨタ車体指定のアルミホイール以外は使用しないでください。
- ・図中※部には、バランスウエイトを貼り付けないでください。

◇サンバイザー（オプション）

前方からの直射日光や対向車のライトのまぶしさを軽減し、視界を確保します。

サンバイザー



チェックポイント

- ・ 使用する時は、お好みの位置までおろして、使用しない時は、上にあげてください。

注意

格納時に物を挟まないでください。
走行中に落下しケガや思わぬ事故につながる恐れがあります。

◇サイドバイザー（オプション）

※キャンバスドアとセットオプションになります。
風の巻き込み、雨の降り込みを軽減します。



サイドバイザー

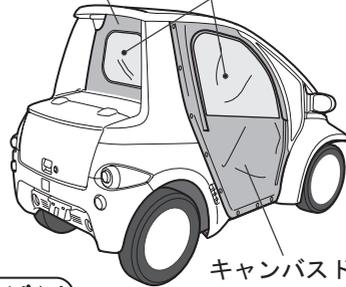
チェックポイント

- ・ キャンバスドアを取り付けるためには、必ず必要です。
- ・ 汚れを取るときは、傷が付かないように中性洗剤を含ませた柔らかい布または、スポンジで拭き取ってください。
- ・ ガソリン、ブレーキフルード、アルコール、シンナー等の有機溶剤がかかると亀裂が入る恐れがあります。

◇キャンバスドア・リヤキャンバス（オプション）

※サイドバイザーとセットオプションになります。
雨、風の侵入を軽減します。

リヤキャンバス ウィンドウ



キャンバスドア

チェックポイント

- ・ 走行前に、ウィンドウの汚れを落として視界を確保してください。
- ・ ファスナーを閉める際はウィンドウを持ち上げて閉めてください。
ウィンドウが倒れた状態から閉めるとファスナーが引っ掛かることがあります。
- ・ ファスナーの開け閉めはゆっくりと操作してください。
急な開け閉めを行うと、生地を噛み込んだり、ファスナーが引っ掛かることがあります。
- ・ 雨天時にキャンバスドア・リヤキャンバスを使用すると、ウィンドウの内側が曇ることがあります。

お手入れの仕方

- ・ 目づまりを防ぐため、ファスナーは定期的に水を含ませた雑巾等で汚れを拭き取ってください。
- ・ 汚れは水を含ませた雑巾等で拭き取ってください。それでも落ちない汚れは、中性洗剤を雑巾に含ませ、やさしく拭き取ってください。



チェックポイント

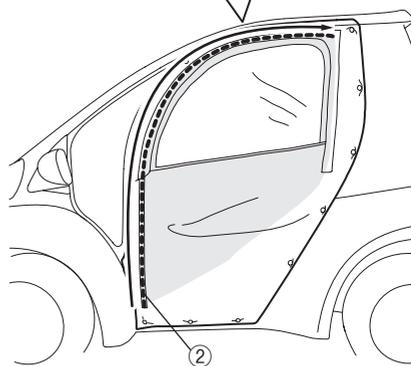
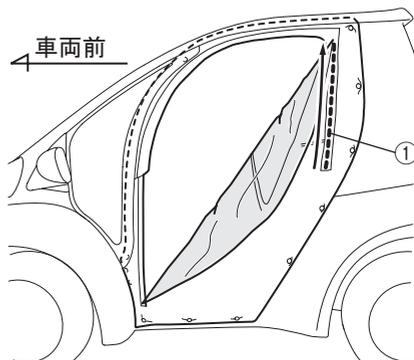
ウインドウは大変傷付きやすいので、特にやさしく拭き取ってください。

注意

乗降時は幌につまづかないよう、足元に注意して乗降ください。
転倒によりケガをする恐れがあります。

ファスナーの閉め方

- 手順1 後側のファスナー①を閉めます。
手順2 ウインドウ上部の生地を持ち上げます。
前側のファスナー②を閉めます。



チェックポイント

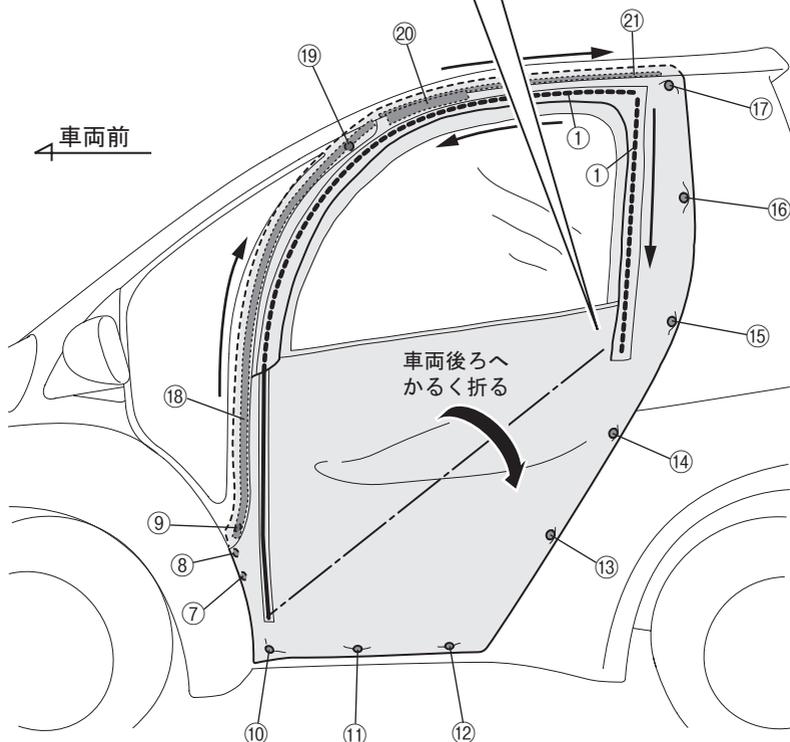
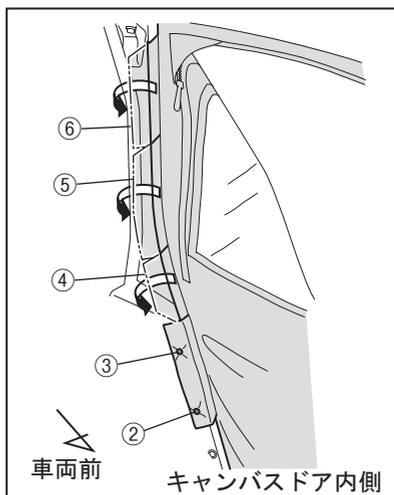
左側ドアの手順を説明していますが、右側ドアの場合も同じ要領で閉めてください。

キャンバスドアの取り外し

- 手順1 ファスナー①（2箇所）を開けます。
手順2 内側のホック②③を外します。
手順3 内側の面ファスナー④～⑥を順番にはがします。
手順4 内側のホック⑦～⑨を順番に外します。
手順5 外側のホック⑩～⑰を順番に外します。
手順6 面ファスナー⑱を下側からはがします。
手順7 内側のホック⑲を外します。
手順8 内側の面ファスナー⑳をはがします。
手順9 面ファスナー㉑を前側からはがし、キャンバスドアを取り外します。

チェックポイント

- ・ 左側ドアの手順を説明していますが、右側ドアの場合も同じ要領で取り外してください。
- ・ 破れの原因となりますので、取り外しの際は無理に生地を引っ張ったりしないで、ホックを1つずつ外し、取り外してください。

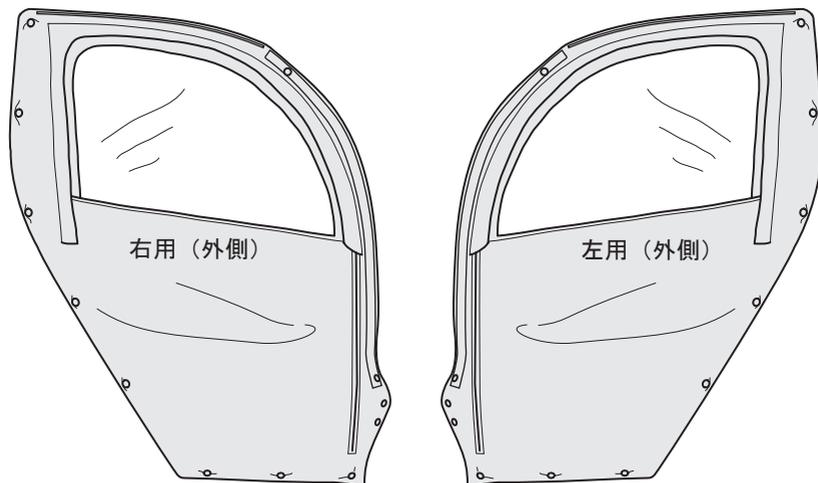


キャンバスドアの取り付け

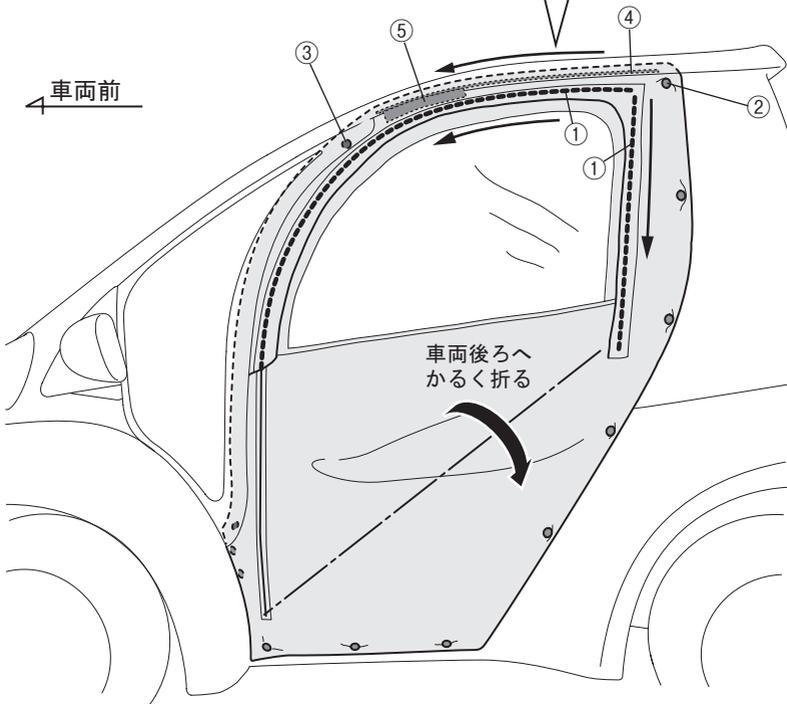
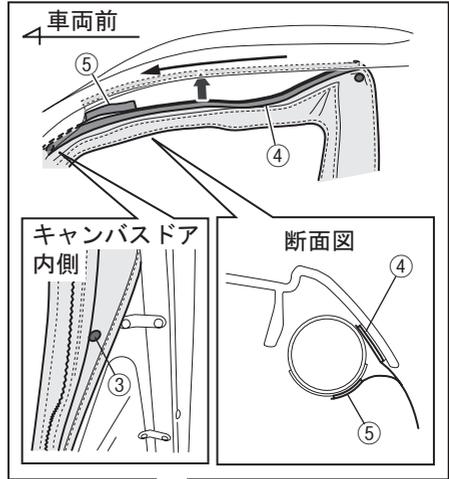
▲注意

キャンバスドアが正しく装着されていないと、思わぬ事故を招く恐れがあります。
本書に従い、正しい方法でキャンバスドアを取り付けてください。

- 手順1 キャンバスドアの右用・左用を確認します。
手順2 キャンバスドアの外側・内側（表裏）を確認します。



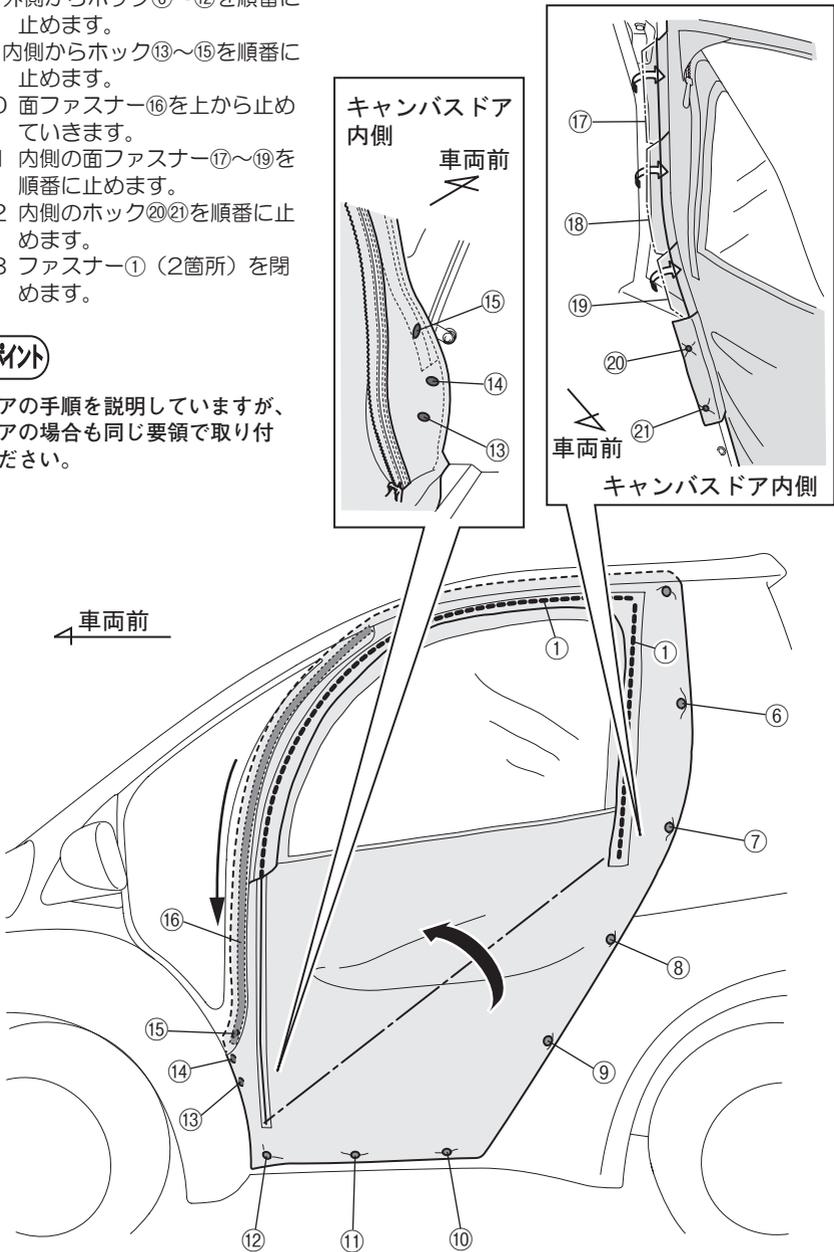
- 手順3 ファスナー①（2箇所）を開けます。
- 手順4 外側からフック②をはめます。
- 手順5 内側からフック③をはめます。
- 手順6 面ファスナー④をフック②側から止めていきます。（屋根とパイプの間に差し込むようにして止めます。）
- 手順7 面ファスナー⑤を内側で止めます。



- 手順8 外側からホック⑥～⑫を順番に止めます。
- 手順9 内側からホック⑬～⑮を順番に止めます。
- 手順10 面ファスナー⑯を上から止めていきます。
- 手順11 内側の面ファスナー⑰～⑱を順番に止めます。
- 手順12 内側のホック⑳㉑を順番に止めます。
- 手順13 ファスナー①（2箇所）を閉めます。

チェックポイント

左側ドアの手順を説明していますが、右側ドアの場合も同じ要領で取り付けてください。

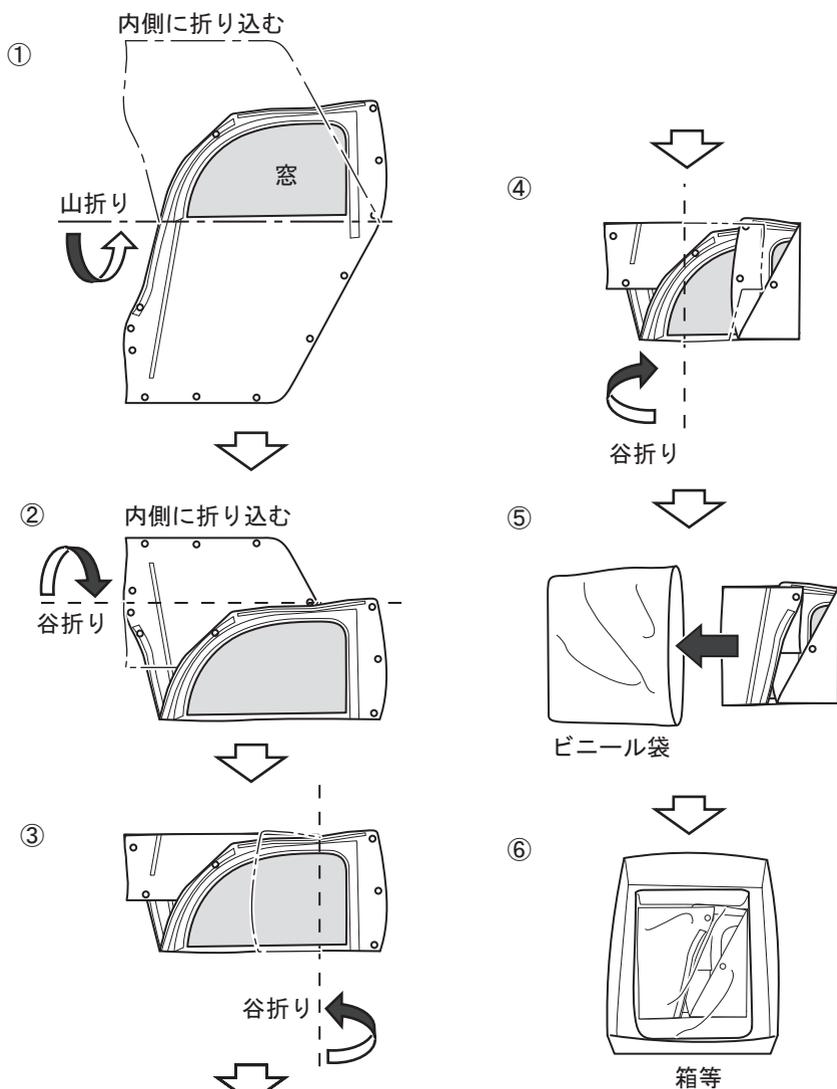


キャンバスドアの保管方法

使用後は汚れをきれいに落とし、キャンバスドアに含んだ水分を完全に乾燥させ、ホコリ等が附着しないようにビニール袋等に入れて保管してください。
保管する場合は、下記のように折りたたみ（箱等に）収納してください。

●キャンバスドアの折りたたみ方

（左ドアで説明します。右ドアも同じ要領でたたんでください。）



リヤキャンバスの取り外し

チェックポイント

破れの原因となりますので、取り外しの際は無理に生地を引っ張ったりしないで、面ファスナーを1つずつはがして、取り外してください。

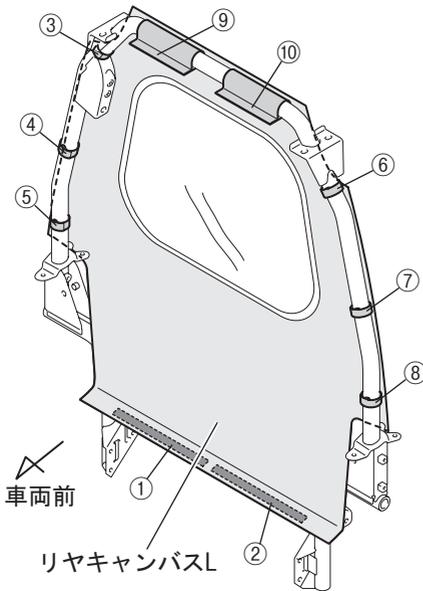
●リヤキャンバスL

(B・COM (デリバリー) を除く)

手順1 内側の面ファスナー①②をはがします。

手順2 内側のベルト (面ファスナー) ③～⑧を順番にはがします。

手順3 内側の面ファスナー⑨⑩をはがし、リヤキャンバスLを取り外します。

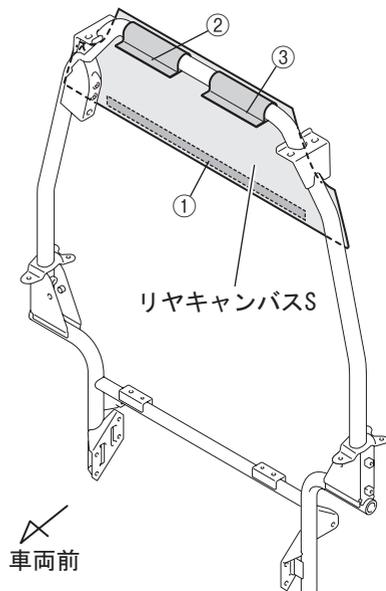


●リヤキャンバスS

(B・COM (デリバリー) 用)

手順1 内側の面ファスナー①をはがします。

手順2 内側の面ファスナー②③をはがし、リヤキャンバスSを取り外します。



リヤキャンバスの取り付け

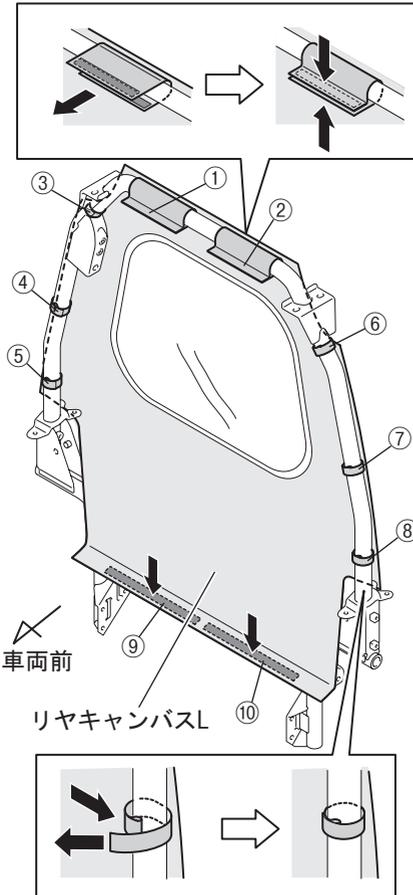
⚠ 注意

リヤキャンバスが正しく装着されていないと、思わぬ事故を招く恐れがあります。
本書に従い、正しい方法でリヤキャンバスを取り付けてください。

●リヤキャンバスL

(B・COM (デリバリー) を除く)

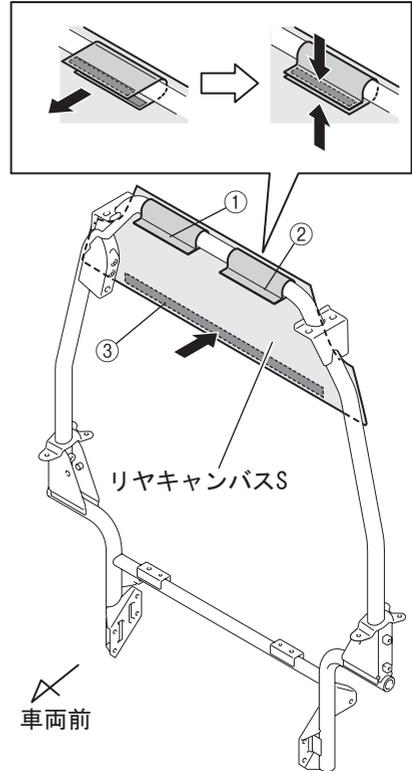
- 手順1 面ファスナー①②を、車両外側からパイプに挟み込み、車両内側で貼り合わせます。(面ファスナーの角を合わせて貼り合わせます。)
- 手順2 ベルト(面ファスナー)③~⑧をパイプに巻き付けて、順番で止めます。
- 手順3 面ファスナー⑨⑩を車両内側で止めます。



●リヤキャンバスS

(B・COM (デリバリー) 用)

- 手順1 面ファスナー①②を、車両外側からパイプに挟み込み、車両内側で貼り合わせます。(面ファスナーの角を合わせて貼り合わせます。)
- 手順2 面ファスナー③を車両内側で止めます。



リヤキャンバスの保管方法

使用後は汚れをきれいに落とし、リヤキャンバスに含んだ水分を完全に乾燥させ、ホコリ等が附着しないようにビニール袋等に入れて保管してください。

保管する場合は、下記のように折りたたみ（箱等に）収納してください。

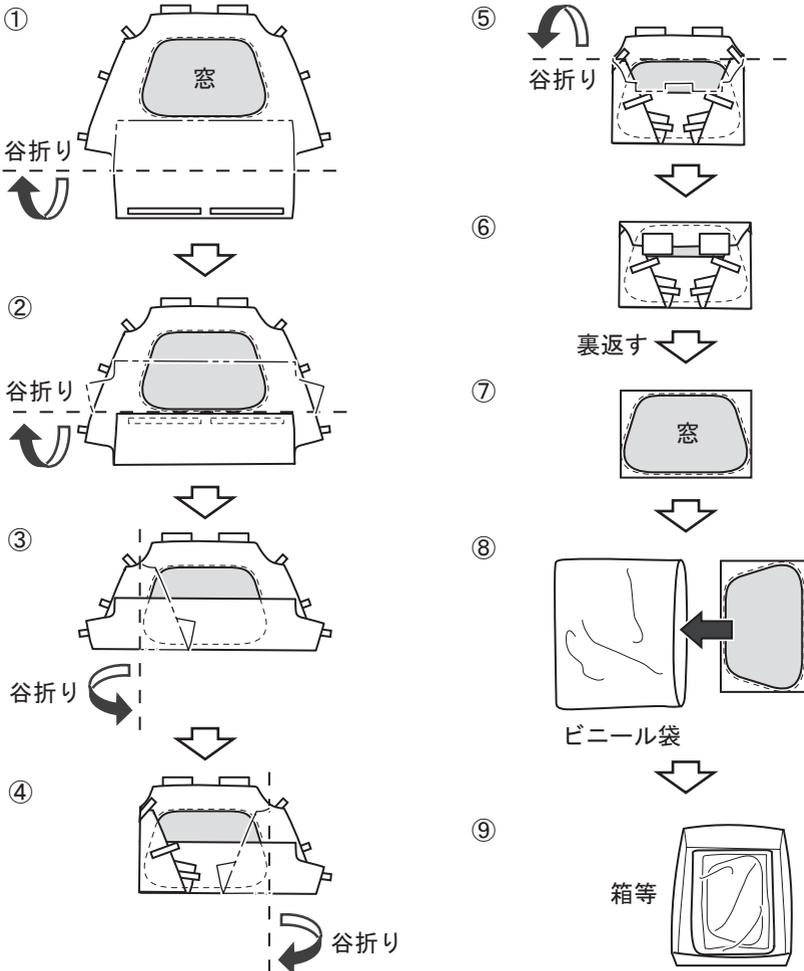
チェックポイント

指示に従って折りたたんでください。

折り目は押さえつけず、かるく折りたたんでください。

窓の部分など傷・折り目が付いたり、破損する恐れがありますので、窓の部分が折り目にかからないように、折りたたんでください。

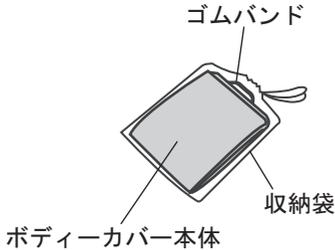
●リヤキャンバスの折りたたみ方



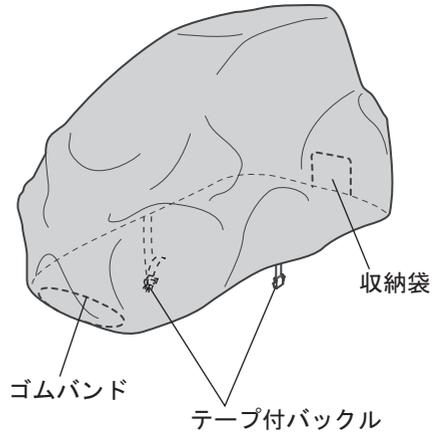
◇ボディーカバー（防災タイプ）

- ・ コムスに乗らないときの保管用カバーです。
- ・ 着火しても燃え広がらない特殊加工を施しています。
- ・ 消防法施行規則に基づき評価をおこない、（財）日本防災協会に認定されています。

<収納状態>



<使用状態>



チェックポイント

- ・ ボディーカバーは撥水加工を施していますが、完全防水ではありませんので、激しい雨・長時間の雨が降った後は必ず外して、よく乾燥させてください。
- ・ ボディーカバーが汚れた場合は、車から外して、水またはぬるま湯で柔らかい布かスポンジで洗い流してください。

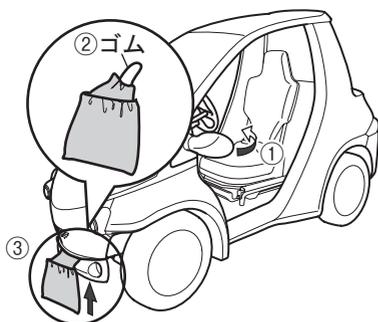
⚠ 注意

ボデーの塗装を傷付ける恐れがありますので、ボデーおよびボディーカバー裏側にほこり・煤煙などが付着しているときは、毛バタキや柔らかい布等で取り除いてから使用してください。また、ワックスがけを行ったときは、ワックスを拭きあげ、よく乾燥させてから使用してください。

⚠ 警告

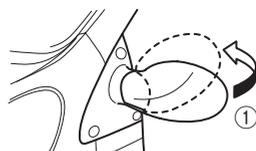
ボディーカバーは、防災加工を施してありますが、不燃製品ではありません。火気の近くでのご使用または、火気を近づけることは絶対にしないでください。

ボディーカバーの使用方法



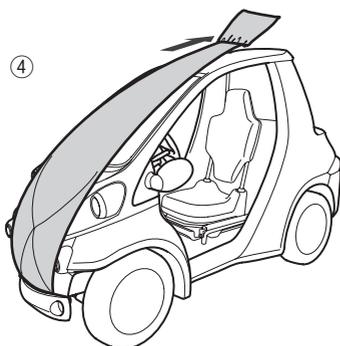
<取り付け方法>

① サイドミラーを格納します。

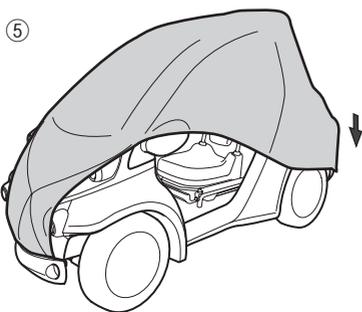


② 図のように、ボディーカバーのゴム部を一部引き出してください。

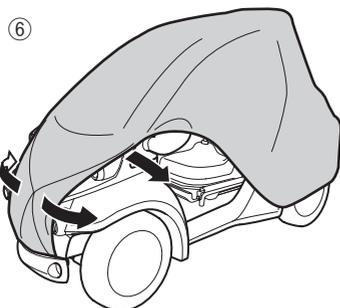
③ フェンダー部にゴムを掛けてください。



④ 袋を車両後方へ引っ張り、カバーを引き出します。

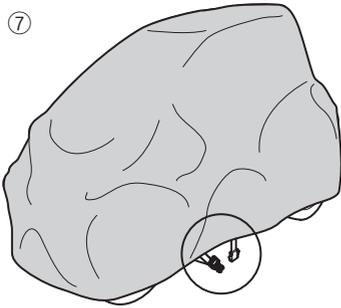


⑤ カバーを全て引き出し、リヤ部より被せてください。



⑥ フロント部を被せます。

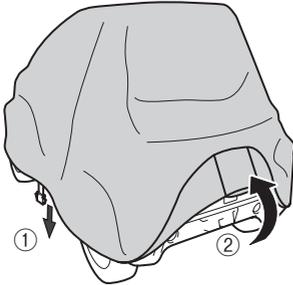
⑦



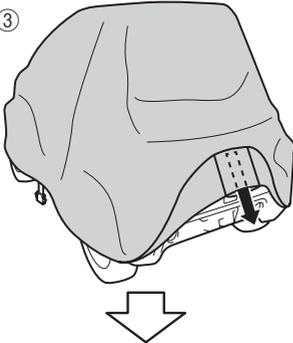
⑦ テープ付バックルを車両の下に通し、バックルをロックしてください。

<取り外し方法>

- ① 車両下中央部のテープ付バックルを外します。
- ② ボディーカバー内側の収納袋をめくり上げます。



③



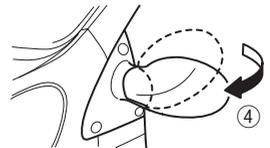
③ 収納袋を裏返してカバーを押し込んでください。

チェックポイント

ボディーカバーのゴムバンドは、右図のように出しておくと、次回の取り付けに便利です。



④ サイドミラーを元に戻してください。



7. 運転操作

(1) 走行する前に

- ①シート前後位置を調節してください。
- ②正しい運転姿勢をとり、シートベルトを締めてください。

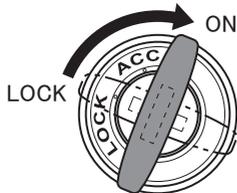
⚠ 危険

走行中はシートベルトを必ず着用してください。道路交通法に違反することはもちろん、走行中に車外へ放り出されたり、ちょっとした追突でケガをする恐れがあります。

- ③サイドミラーは、後方の様子がしっかり確認できるように調節してください。

◇キースイッチ「ON」

- ①キーをキースイッチに差し込みます。
- ②パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
- ③シフトレバーは「N」の位置にあることを確認します。
- ④ブレーキペダルを右足で踏んだ状態でキーを回し「ON」にしてください。



チェックポイント

- ・ キースイッチを「ON」にし、しばらくしてスピードメーターが「0（ゼロ）」を表示すると走行可能となります。
- ・ 下記に該当する場合は「走行可能状態」に移行しません。
 - 1) シフトレバーが「N」以外するとき
 - 2) ブレーキペダルを踏んでいないとき
 - 3) アクセルペダルを踏んでいるとき
- ・ ブレーキペダルを踏み、シフトレバーを「N」にしたのを確認して、キー操作をしてください。

タイヤが回転していると、始動チェックエラーとなり連続ブザーが鳴ります。
車両を停止させキースイッチを「OFF」にし、再度キースイッチを「ON」に入れ直してください。

- ・ シフトレバーが「D」または「R」のときは、走行可能状態に移りません。また、その状態が続けられますと、5分後に節電機能が働き電源が切れます。
その時は、電源の切れる前30秒間、警告として、連続ブザーが鳴ります。

◇発進

- ①アクセル・ブレーキペダルの位置を右足で確認してください。

⚠ 警告

足元には何も置かないでください。ペダルの操作が思うように行えず非常に危険です。

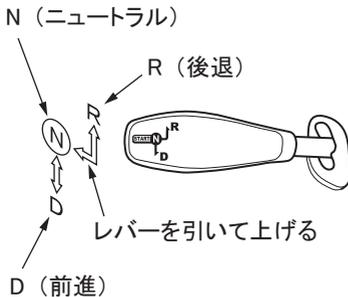
チェックポイント

- ブレーキランプ、非常点滅灯はキースイッチの「ON・OFF」関係なく点灯可能です。
- ②ブレーキペダルをしっかりと踏み、パーキングブレーキレバーを解除し、メーター内のパーキングブレーキ表示灯が消えるのを確認してください。

⚠ 注意

長い時間の停車または駐車する場合は、平坦地であってもコムスが動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、常にパーキングブレーキを使用してください。

③進行方向にシフトレバーを設定します。



チェックポイント

シフトレバーが「N」の状態ではアクセルペダルを踏むと断続ブザーが鳴ります。アクセルペダルから足をはなしてから、シフトレバーを「D」または「R」にして、アクセルペダルを踏んでください。

④ブレーキペダルを緩め、アクセルペダルをゆっくり踏み込むことによって発進します。

注意

- ・ 不用意なアクセル操作等は、思わぬ事故につながる恐れがありますのでご注意ください。
- ・ コムスは一般乗用車のようなエンジン音を発しません。歩行者等がコムスの接近に気づかないことがありますので、走行するときは周囲に気を配りながら安全運転に心掛けてください。

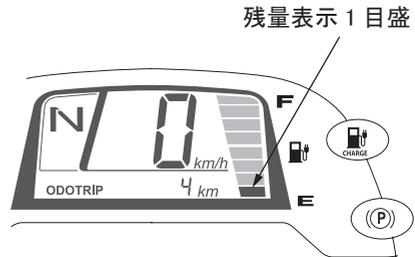
警告

コムスが動いている状態のときにシフトチェンジをしないでください。コムスが動いている状態でシフトレバーを操作すると、モーターが破損したり、また急制動、急発進の挙動につながり大変危険です。

(2) 走行

◇走行中のインジケータランプ

駆動バッテリーの残量表示（スピードメーター内に8目盛表示）は、バッテリーの容量低下に伴って上から一つずつ残量表示が消えていきます。



駆動バッテリー残量表示が3目盛から2目盛、2目盛から1目盛になったことを断続ブザー（ピピピピッ）で知らせます。ブザーは5回で鳴り止みます。

チェックポイント

- ・ 残量表示が最後の2目盛になったら、速やかに充電してください。そのまま走り続けて、1目盛表示が点灯し、5～10kmほど走行すると、点滅に変わります（※路面状況や車両状態、外気温、バッテリー劣化具合等により変化します）。残量表示が点滅すると、ブザー（断続音）が約30秒鳴りその後、電欠により走行できなくなります。
- ・ ブザーの鳴っている約30秒の間に安全な場所へ移動してください。場合によっては30秒未滿で走行できなくなる恐れもあります。
- ・ 不都合な場所で停止してしまった場合、シフトレバーを「N」にし、キースイッチを再び入れ直すことにより、さらに約30秒間走行できます。安全な場所へ移動してください。（連続したキースイッチの入れ直し走行はバッテリーの劣化を早めることになります。）

チェックポイント

- ・ 残量表示が2目盛以上ある状態から急に1目盛の点滅表示になり断続ブザーがなった場合は、駆動バッテリーが劣化している可能性があります。そのため、コムス販売店にご相談ください。
この現象が発生した際にはアクセルペダルを緩めることで少しの間走行を継続できる場合があります。

◇通常の走行

シフトレバーを「D」のまま走行します。アクセルペダル・ブレーキペダルの操作で、速度調節（加速・減速）します。

◇上り坂走行

▲注意

長い上り坂を走行すると、モーター類が過熱して警告ランプが点灯することがあります。
安全な場所に移動して、しばらく冷却させてから走行するようにしてください。そのまま走行を続けると緊急停止することがあります。

◇下り坂走行

回生ブレーキ（エネルギー回生機能）を利用してください。必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。

▲注意

走行中はシフトレバーを「N」にしないでください。「N」にすると回生ブレーキが効かないため、思わぬ事故につながる恐れがあります。

(3) 停車

- ① シフトレバーを「D」のままブレーキペダルをしっかりと踏み停車させます。
- ② 信号待ち等の長めの停車時は、シフトレバーを「N」にしてパーキングブレーキを使用してください。
バッテリーの消費を少なくします。



▲注意

パーキングブレーキ使用中はアクセルペダルを踏み込まないでください。
ブレーキの効きが甘くなったり、モーターに過大な負荷がかかり故障の原因となることがあります。

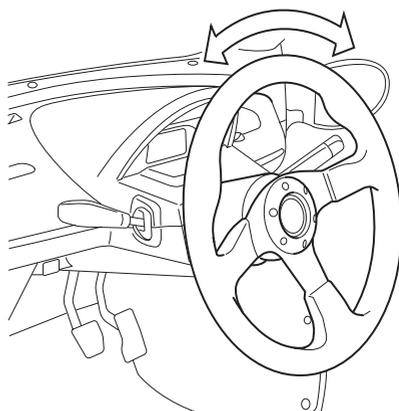
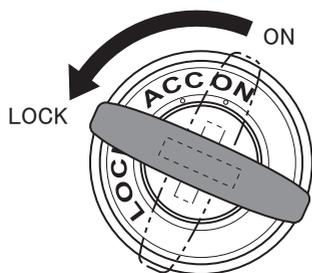
- ③ 停車後、再度発進するときはシフトレバーが「D」または「R」の位置にあること、そしてパーキングブレーキの解除を確認してから、ゆっくりアクセルを踏み込んでください。

(4) 駐 車

- ① 車両が完全に停止したのを確認してからシフトレバーを「N」にします。
- ② パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引いてください。
- ③ キースイッチを「LOCK」へ回して、キーを抜いてください。
- ④ ハンドルを右か左方向へ回すとハンドルが固定されます。そのとき、“カチッ！”という音がします。ハンドルを左右に回して、ロックしたのを確認してください。

チェックポイント

パーキングブレーキかけ忘れ（P点滅）が表示された場合はパーキングブレーキをかけてください。



警告

- ・ やむを得ず、坂道に駐車するときは、市販の輪止めを使用してください。
- ・ 急な坂道での駐車は避けてください。無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながる恐れがあります。

8. 寒冷時の取扱い

チェックポイント

冬期は気温の低下と共にバッテリー能力も低下し、走行距離が短くなります。

◇ウォッシャー液

ウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液容器に表示してある凍結温度を参考に希釈してください。

◇屋根に積もった雪

走行中、屋根に積もった雪が視界の妨げになります。走行前に取り除いてください。

◇ガラス面に付いた雪や霜

視界の妨げになる雪や霜は、プラスチックの板やぬるま湯を用いて、ガラスに傷を付けないように取り除いてください。

▲注意

熱湯は絶対に掛けないでください。
ガラスが割れる恐れがあります。
大量の水やぬるま湯を一気に掛けないでください。

◇ワイパーの凍結

無理に動かそうとして、スイッチを押し続けると、装置が破損したり、ヒューズ切れを起こす原因となります。

◇滑りやすい路面の走行

- ・急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドル等の“急”の付く動作は避けてください。
- ・橋の上や、日陰など凍結しやすい場所では減速してください。
- ・積雪時、凍結路では早めにタイヤチェーン（P.57参照）を装着してください。



◇駐車するときは

- ・寒冷時は、パーキングブレーキをかけることでブレーキ装置が凍結して解除できなくなる恐れがあります。
コムスを平らな場所に止め、手順に従って駐車してください。

手順1. パーキングブレーキをかけキー
スイッチをOFFに回す

手順2. 輪止め※をする

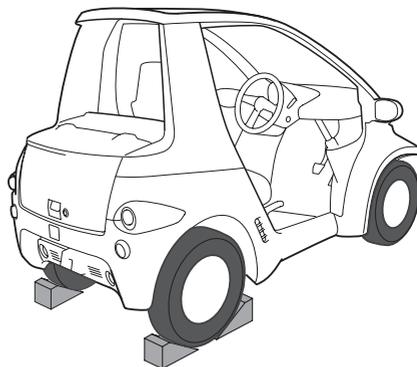
手順3. パーキングブレーキを解除する

※輪止めはコムス販売店へお問い合わせ
ください。

▲注意

坂道での駐車は避けて、必ず輪止めを使用してください。

無人で車が動き出すなど、思わぬ事故につながる恐れがあります。



- ・降雪時は、寒さでワイパーがガラスに凍り付く恐れがあります。
ワイパーアームを立てて駐車してください。

▲注意

- ・ワイパーアームを戻す際は、ゆっくりと戻してください。
- ・ワイパーを倒す（戻す）際にメインアームとサブアームの間に手を挟まないよう注意ください。

◇タイヤチェーン

- タイヤチェーンは後2輪に取り付けてください。
前輪に付けると、車体に接触し走行機能に悪影響を及ぼす恐れがあります。
- タイヤチェーンの取り付け、および取扱い方法はタイヤチェーン付属の取扱書に従ってください。

注意

- タイヤチェーンはコムスのタイヤサイズに合ったものを使用してください。サイズが合っていないタイヤチェーンを使用すると、事故や故障の原因になることがあります。
- タイヤチェーンを装着して走行するときは、突起や穴を乗り越えたり、急ハンドルや車輪がロックするようなブレーキ操作などはしないでください。車両が思わぬ動きをして事故につながる恐れがあります。

9. メンテナンス

(1) 日常点検

▲ 注意

日常点検は、お車を使用する人が1日1回運転する前に実施する点検です。下記注意事項を読んでいただき、安全に十分注意して行ってください。

- ・点検は平坦な所で行ってください。
- ・走行して点検する項目がありますが、そのときは安全な場所で周囲の交通事情に十分注意をして行ってください。
- ・点検整備をするときは、火気厳禁です。
- ・点検箇所で見つかった場合は、コムス販売店へご相談ください。

◇メンテナンスホールについて

- ・ウォッシャー液およびブレーキフルード/リザーバタンクの点検は、メンテナンスホールを開けて行います。

手前に引いて開ける

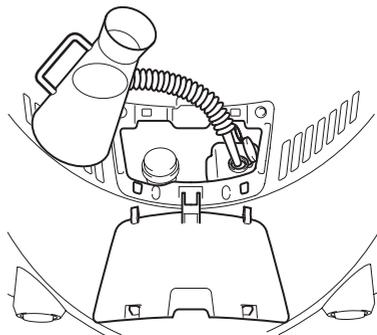


▲ 注意

- ・メンテナンスホールを開ける際は、手を痛めないよう注意してください。
- ・メンテナンスホールを閉める際は、「カチッ」と音がするまで、確実に閉めてください。

◇ウォッシャー液の点検

- ・ウォッシャー液の点検は、メンテナンスホールを開けて行います。
- ・ウォッシャー液が不足している場合は、メンテナンスホール内のウォッシャータンクのキャップを外し、容器に表示してある凍結温度を参考に希釈して補給します。補給時は、周囲にこぼさないよう注意して補給してください。



チェックポイント

ウォッシャー液はカー用品販売店、ガソリンスタンド、コムス販売店等でお買い求めください。他のせっけん水等を入れ、使用されますとボデー面にしみが残る恐れがあります。

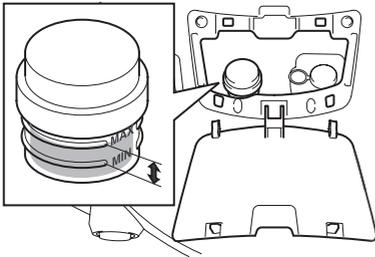
▲ 注意

- ・ウォッシャータンクのフタは、必ず閉まっていることを確認してください。
- ・ウォッシャータンクへ寄りかからないでください。
- ・ウォッシャータンクのフタは無理に引っ張らないでください。
- ・ボデーや周辺部品に掛かった場合は、ウエス等で拭き取ってください。

◇ブレーキフルード／

リザーバタンクの点検

- ブレーキフルード／リザーバタンクの点検は、メンテナンスホールを開けて行います。
- メンテナンスホール内のリザーバタンク周辺から液漏れがないか点検してください。
- リザーバタンクの液面がMIN線とMAX線の間にあるかを確認し、MIN線より下にある場合はMAX線まで指定のブレーキフルードDOT3（トヨタ純正ブレーキフルード2500H-A）を入れてください。他のブレーキフルードとの併用はやめてください。



- * ブレーキフルードがボデー等に付着すると塗装が剥がれることがあります。
- * ブレーキフルードは2年に1度、定期点検整備のときに交換してください。

⚠ 警告

- 粗悪品や他種の油と混ぜることをしないでください。ブレーキが作動しない恐れがあり非常に危険です。
- ブレーキフルードの減りが著しいときは、漏れが考えられます。ブレーキが作動しない恐れがあり非常に危険です。

⚠ 注意

- リザーバタンクのフタは、必ず閉まっていることを確認してください。
- リザーバタンクへ寄りかからないでください。
- リザーバタンクのフタは無理に引っぱらないでください。

◇ワイパーの点検

- ワイパーを作動させ正常に機能しているかを確認します。
- ワイパーブレードの劣化により拭き残しがある場合は交換してください。交換はコムヌ販売店へご相談ください。

◇タイヤ空気圧の点検

タイヤの空気圧は必ず点検してください。空気圧は、運転席の右側足元の位置に貼られている「タイヤ空気圧」の表、または次項のメンテナンスデータで正しい空気圧を確認のうえ、調整してください。

◇タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤ接地面の全周や両側面に著しい亀裂や損傷がないか、また異物の噛み込みがないかを点検してください。

◇タイヤ溝の深さの点検

タイヤの接地面のウェアインジケータ（摩耗限度表示）等により、溝の深さを点検してください。

◇タイヤの偏摩耗の点検

タイヤ接地面に異常な摩耗がないかを点検してください。

◇警音器（ホーン）の点検

キースイッチ「ON」にして、警音器（ホーン）がなるか、ハンドルのホーンスイッチを押して点検してください。

◇ブレーキペダルの点検

ブレーキペダルを踏み込んだとき、異常に軽くないか、引っかかる感触がないかを確認してください。さらに、効き具合が十分であるかを乾燥した路面を低速走行して点検してください。

◇パーキングブレーキの点検

パーキングブレーキレバーをゆっくり引いてブレーキが完全に効くまでのノッチ数（音の数）を調べてください。（基準値：4～6ノッチ）

◇灯火装置、方向指示器の点検

- キースイッチ「ON」にして、前照灯（ヘッドライト）、尾灯（テールランプ）等の灯火装置や方向指示器の点滅状態が良好か、またレンズに汚れや損傷がないか点検してください。
- 電球（バルブ）が点灯、点滅しない場合は、電球（バルブ）を交換してください。（P.62参照）
- ランプ内部がくもって水分が発生することがありますが、水分が抜ける構造となっていますので、交換等の必要はありません。

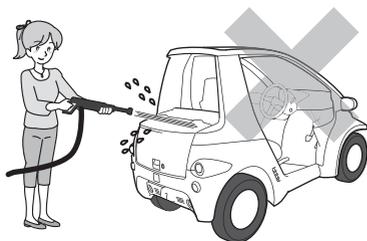
◇モーターの点検

アクセルペダルを踏んで、スピードの加減速がアクセル操作どおりにスムーズか、モーターから異音がしないか点検してください。

◇充電コード差し込み口、充電コードの点検

充電コード差し込み口（車両側）および充電コードに、汚れや腐食、損傷がないか点検してください。

(2) お手入れ



⚠ 注意

- ・ 高圧洗車（洗車機）、ホース洗車はしないでください。
車内のスイッチ類、フロア下の電気部品に水がかかると故障する恐れがあります。
- ・ ベンジン・シンナー等の有機溶剤や、酸・アルカリ性溶剤を使わないでください。変色やシミの原因になります。

◇内装のお手入れ

中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽く拭き取ります。さらに水に浸した布を固くしぼって拭き取ります。
汚れがひどいときはコムス販売店にご相談ください。

⚠ 注意

車内のスイッチ類、フロア下の電気部品に水がかかると故障する恐れがあります。

◇ボデーのお手入れ

ボデーの洗車は、濡れた雑巾等でお手入れしてください。



⚠ 注意

- ・ ブレーキの制動部分に水をかけないでください。
水がかかるとブレーキの効きが悪くなる恐れがあります。
- ・ 下廻りのお手入れでは、手にケガをしないようにご注意ください。

チェックポイント

- ・ 洗車後は、安全な場所で周囲の交通事情に十分注意しながら、低速でブレーキの効き具合を確認してください。
- ・ カラー塗装は固形ワックスも使用できます。

(3) 電球 (バルブ) の交換

ここでは、主な電球 (バルブ) の交換方法を記載します。記載されていない電球の交換はコムス販売店にご相談ください。

チェックポイント

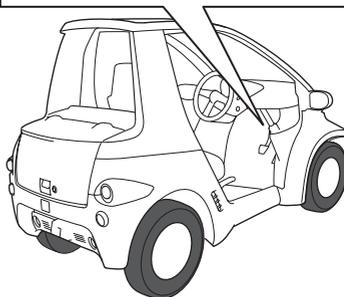
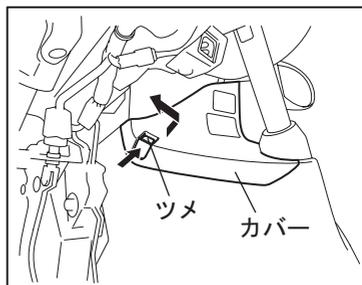
- 必ず、同じW数の電球をご使用ください。
(P.68参照)
- 左右同じ電球が付いている場合は、同時に交換することをお勧めします。
- 電球および電球固定具の取り付けは、確実に行ってください。取り付けが不完全な場合、水入り等による故障およびレンズ内面の曇りにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

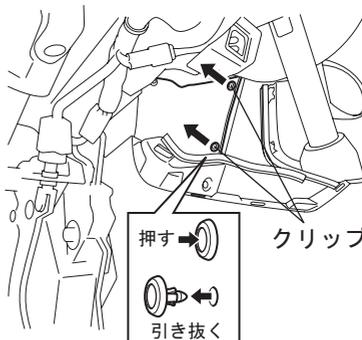
- ハロゲン電球はガラス内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつかけたり、傷を付けたりすると破損してガラスが飛び散る場合がありますので、十分注意して取り扱ってください。
- ハロゲン電球のガラス面を素手で触れないでください。油脂等が付着すると早期にバルブ切れをおこします。触れるときは、必ずきれいな手袋を着用してください。
- 電球を交換するときは、各ランプを消灯させ、電球が冷えてから交換してください。火傷をする恐れがあります。

◇前照灯の電球交換

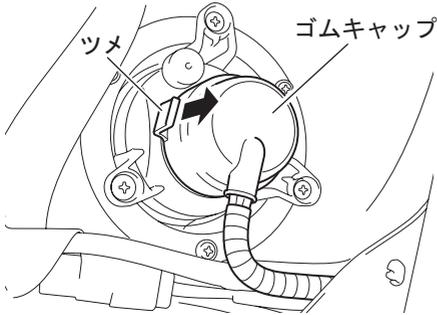
- ① ツメを押しながら引き上げロックを外し、カバーを取り外します。



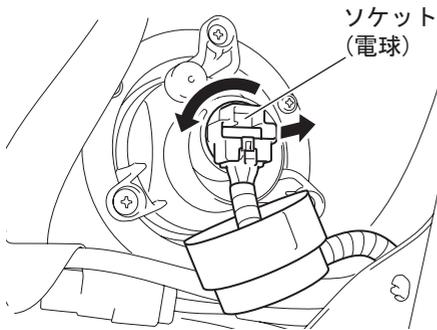
- ② クリップ中央を押してロックを外し、クリップを引き抜きます。



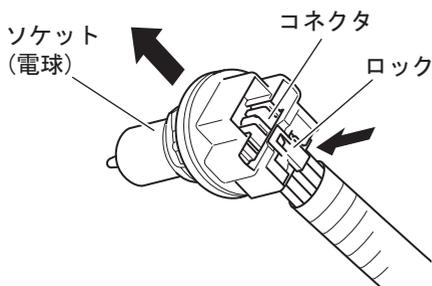
③ ツメを図中矢印に引っ張って、ゴムキャップを外します。



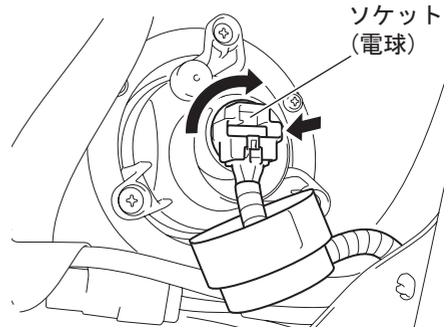
④ ソケット（電球）を左に回し引き抜きます。



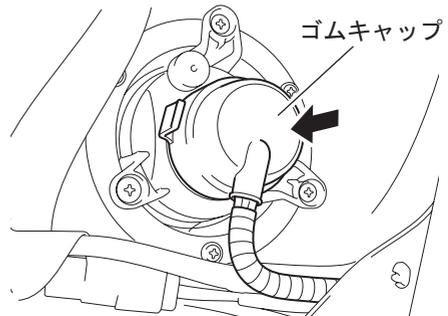
⑤ コネクタのロックを外し、ソケット（電球）を引き抜きます。



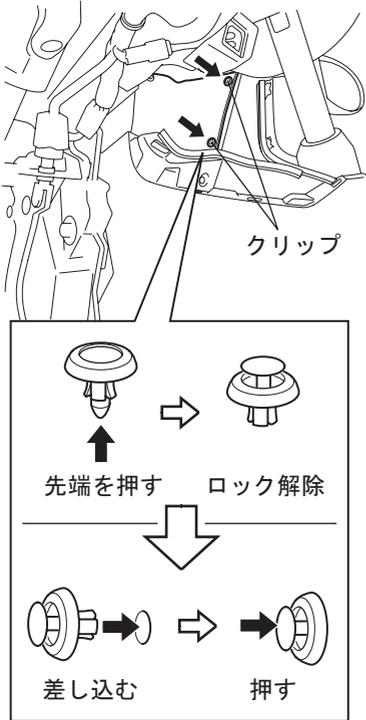
⑥ 新しいソケット（電球）に交換し、取り外しと逆の手順でソケット（電球）を前照灯に取り付けます。



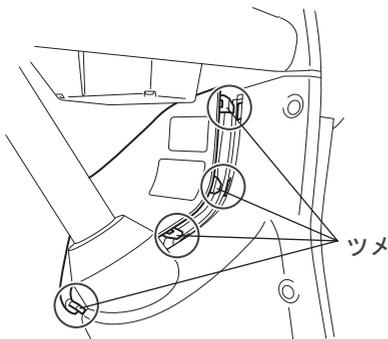
⑦ ゴムキャップを取り付けます。



- ⑧ クリップの先端を押してロック解除の状態にし、カバーにクリップを挿入して固定します。
クリップ中央のロックを押し込み固定してください。

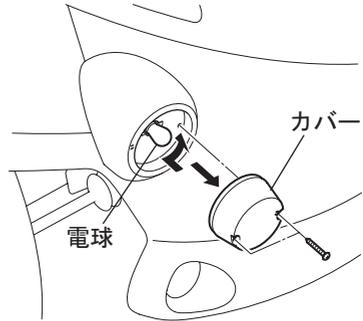


- ⑨ カバーのツメ4カ所を合わせ、取り付けます。
車両内側のツメをロックします。

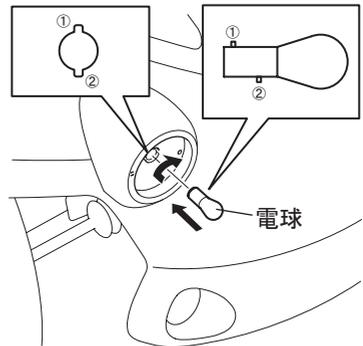


◇方向指示灯／非常点滅灯／
車幅灯（フロント）の電球交換

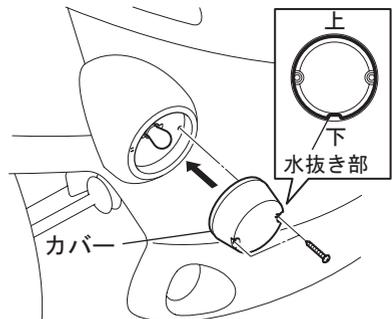
- ① ネジを2本外し、カバーを取り外します。
② 電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



- ③ 新しい電球のピンの位置を図のように合わせ、押し込みながら、右に回して固定します。

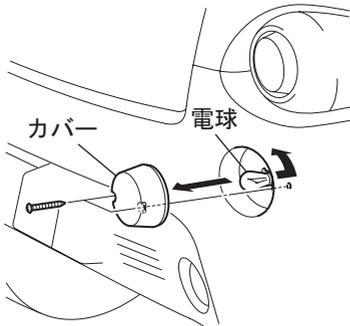


- ④ カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めします。

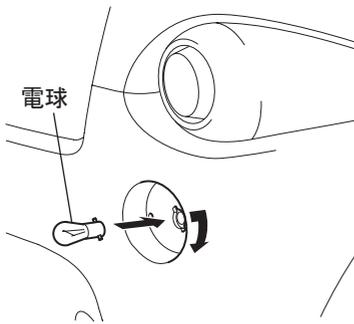


◇方向指示灯／非常点滅灯（リヤ）
の電球交換

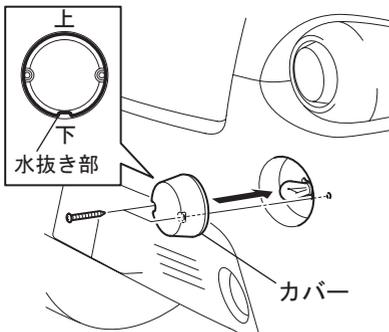
- ①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
- ②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



- ③新しい電球のピンの位置を合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

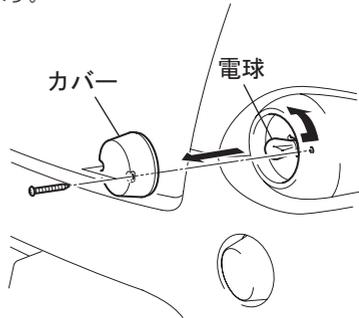


- ④カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めます。

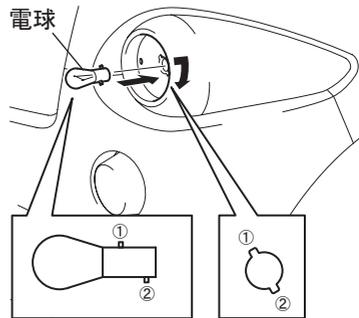


◇ブレーキランプ／テールランプの
電球交換

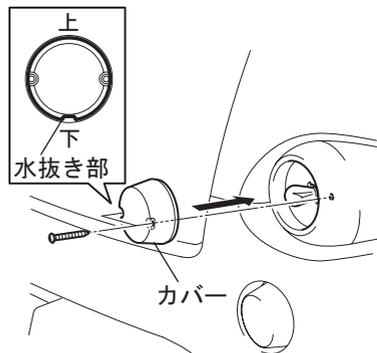
- ①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
- ②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



- ③新しい電球のピンの位置を図のように合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

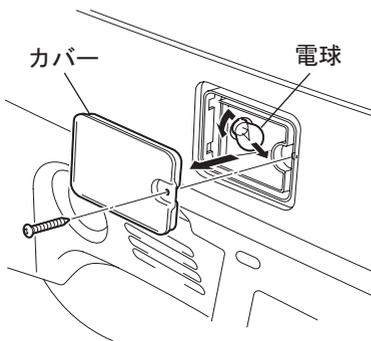


- ④カバーの水抜き部が下になるようにネジ止めます。

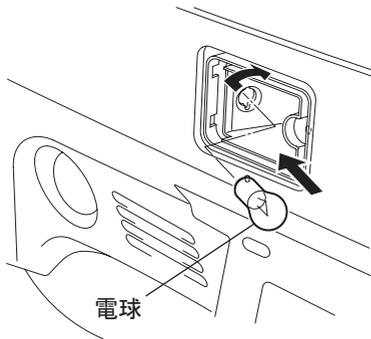


◇後退灯の電球交換

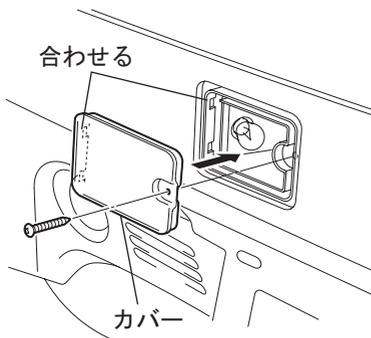
- ①ネジを1本外し、カバーを取り外します。
- ②電球を押し込みながら左に回し、引き抜きます。



- ③新しい電球のピンの位置を合わせ、押し込みながら右に回して固定します。

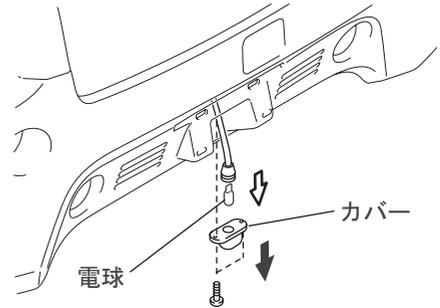


- ④先にツメ2カ所を合わせ、カバーをネジ止めします。

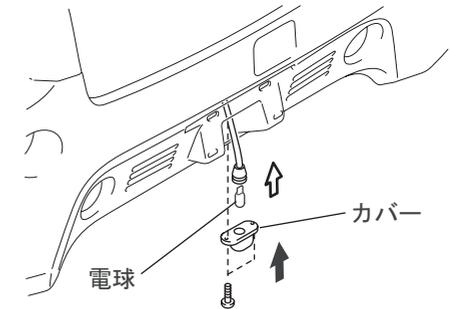


◇番号灯の電球交換

- ①ネジを2本外し、カバーを取り外します。
- ②電球を引き抜きます。



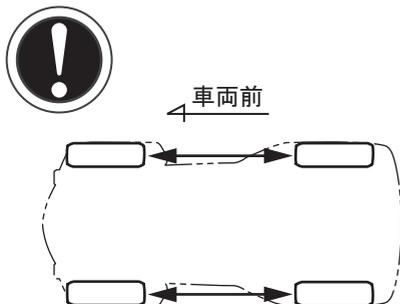
- ③新しい電球を、押し込み固定します。
- ④カバーをネジ止めします。



(4) その他の点検整備

◇タイヤの位置交換

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命を延ばすために2,000kmごとに位置交換します。



◇ヒューズの点検・交換

ランプが点灯しないときや、コムスが動かないときはヒューズ切れが考えられます。コムス販売店までご連絡ください。

⚠ 危険

電気系統にはむやみに工具や素手で触れないようにしてください。

感電して大ケガ、または生命に関わる重大な傷害を受ける恐れがあります。また、走行不良を起こしたり、故障の原因にもなります。

◇定期点検整備

- 12ヵ月および24ヵ月ごとの、コムス販売店で行う点検整備があります。定期的な交換が必要な部品がありますので、コムス販売店の指示に従ってください。
- 日頃コムスを乗っているときに感じられた不具合等がありましたらコムス販売店にご相談ください。

* メンテナンスノート（点検整備記録簿）をよくお読みになり、その指示に従ってください。

(5) メンテナンスデータ

◇整備情報

ブレーキペダルの遊び		0～5mm	
ブレーキペダルと床との隙間		84mm 以上	
パーキングブレーキの引きしろ		4～6 ノッチ・200N	
タイヤ空気圧	前輪	200 kPa (2.0kgf/cm ²)	
	後輪	200 kPa (2.0kgf/cm ²)	
ブレーキフルード		DOT3(トヨタ純正ブレーキフルード 2500H-A)	
ウォッシュータンク容量		1.5 リットル	
電球	前照灯(ハイビーム/ロービーム)	35W/ 30W×2	種別：HS5 35W/30W(12V) タイプ：T15(ダブル)
	フロント方向指示灯/車幅灯	21W (兼非常点滅灯)/ 5W	種別：P21/5W(12V) タイプ：S25(ダブル)
	リヤ方向指示灯	21W (兼非常点滅灯)	種別：P21W(12V) タイプ：S25
	ブレーキランプ/テールランプ	21W/ 5W	種別：P21/5W(12V) タイプ：S25(ダブル)
	番号灯	5W	種別：W5W(12V) タイプ：T10
	後退灯	21W	種別：P21W(12V) タイプ：S25

○コムスの保証について

トヨタ車体では、お買い上げいただいた製品について、「トヨタ車体保証制度」に基づいた品質の保証を致しております。別冊のメンテナンスノートに、その保証内容が詳しく記載してありますのでご参照ください。

○メンテナンスノート (点検整備記録簿)

メンテナンスノートは、定期点検整備の実施内容を記録するもので、運転免許証、届出済証、保険証書などと一緒常に携行していなければなりません。汚したり、濡らしたり、紛失しないように大切に保管しておいてください。

○点検修理の場合は

点検整備の中には技術的知識を必要とする構造・装置(モーター、コンピューター等)があります。お客様自身で作業および、良否の判定ができない場合はコムス販売店へご相談ください。

[諸元表]

仕 様		P・COM	B・COM		
			デリバリー	デッキ	ベーシック
車両型式	型式	ZAD-TAK30-PD	ZAD-TAK30-DS	ZAD-TAK30-KS	ZAD-TAK30-BS
	原動機の形式	TA-O1			
重量	車両総重量	475kg	485kg	475kg	465kg
	車両重量	420kg	430kg	420kg	410kg
性能	種別又は範囲	※1 第一種原動機付自転車（四輪）			
	燃料の種類	電気			
	最高速度	60km/h			
	最小回転半径	3.2m			
	乗車定員	1名			
主要寸法	全 長	2,395mm		2,475mm	2,395mm
	全 幅	1,095mm		1,105mm	1,095mm
	全 高	1,500mm	1,495mm	1,500mm	1,505mm
	軸 距	1,530mm			
	輪 距	前軸：930mm 後軸：920mm			
タイヤ(前輪・後輪)	※2,※3 145 / 70R12 69S				
駆動バッテリー		密閉型鉛蓄電池 12V×52Ah×6個			
補機バッテリー		密閉型鉛蓄電池 12V×17Ah×1個			
充電装置	制御方式	定電流・定電圧充電			
	交流入力電源	100V 9.5A			
原動機	定格出力	0.59kW			
	最高出力	5.0kW			
	最大トルク	40N・m			
動力伝達装置	減速比	8.359			

※1 道路交通法上は、普通自動車のため普通免許が必要です。

※2 オプションアルミホイールは、指定以外の場所にバランスウェイトを貼り付けないでください。

※3 指定以外のホイールは使用しないでください。

[その他、メカニズム等]

仕 様		P・COM	B・COM		
			デリバリー	デッキ	ベーシック
駆動方式		1 モータデフ付き後輪駆動			
原動機	種類	永久磁石同期電動機			
	制御方式	ベクトル制御定周波数可変バルス幅式			
Fr サスペンション		マクファーソン式コイルスプリング			
Rr サスペンション		後端配置トーションビーム式コイルスプリング			
ブレーキ作動方式		前輪ディスクブレーキ（油圧式）、後輪ドラムブレーキ（油圧式）			
最大積載量		45kg	45kg	※4 90kg	30kg
充電時間		※5 6時間程度			
坂道発進可能な最大角度		※6 13°（23%勾配）			

※4 道路交通法施行令により定められた上限重量。

※5 定められた試験条件の下でバッテリー残量計が消えた状態から充電表示灯が緑色点滅に至るまでの所要時間です。実際の充電時には、気象・整備・バッテリーの劣化・充電等の条件に応じて異なります。

※6 装着オプション、路面状況、荷物の重さや乗員の体重により変動します。

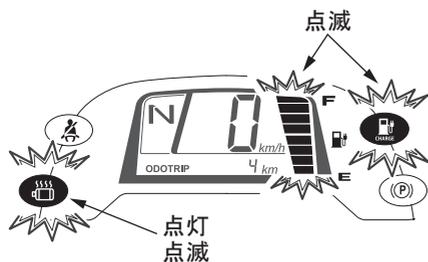
10. 万一の場合

(1) 警告機能

コムスは、故障（不具合）を最小限に抑えるため、異常を感知すると表示灯または警告灯の点滅・点灯や、ブザーが鳴ったり、緊急停止させたりして運転者へ知らせる警告機能が組み込まれています。

◇表示灯または警告灯で知らせる

メーター内部にある表示灯または警告灯が、異常を感知したときに点滅・点灯します。



⚠ 注意

表示灯または警告灯の点滅・点灯時は、無理に走行を続けしないでください。大きな故障にしないために、早めの対応をしていただくための異常表示です。

◇ブザー音で知らせる

ブザーが断続音や連続音で鳴り、運転者にコムスが今どのような状態かを知らせます。制御を遮断する等の注意を促すための警告です。

◇緊急停止処理

異常を感知すると、警告音（ブザー連続音）が鳴ると同時に、車両への供給電源を停止させます。

◇警告内容とその対処方法

<充電時>

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	消灯	充電中にキースイッチ「ON」にした。	充電コードを取り外した状態でキースイッチ「ON」にする。
無し	 点滅(赤)	充電システム異常	充電コードを差し直す。

<駐車時 (キースイッチ「OFF」時)>

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	パーキングブレーキかけ忘れ表示がP点滅 	パーキングブレーキがかけられていない。	パーキングブレーキをかける。

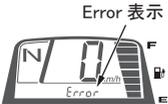
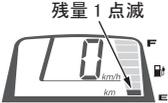
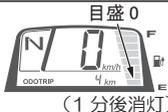
<停車時>

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	点灯	キースイッチ「ON」で5分間放置した場合に鳴ります。	キースイッチを入れ直す。

<始動時>

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	消灯	アクセルペダルを踏んだ状態でキースイッチ「ON」にした。	アクセルペダルを踏まない状態でキースイッチ「ON」にする。
連続音	点灯	車両が動いている。	車両を完全に停止させてキースイッチを入れ直す。
無し	シフトポジション表示が点滅 	シフトレバーが「D」または「R」になっている。	ブレーキペダルを踏みながらシフトレバーを「N」に切り替える。
無し	シフトポジション表示が点滅  表示灯・警告灯全点灯	ブレーキペダルを踏んでいない。	シフトレバーを「N」の状態ではブレーキペダルを踏む。
無し	起動後5秒程度残量計点滅 	駆動バッテリー劣化。	コムス販売店へ連絡して、点検を受ける。
無し	 点滅(赤)	注意喚起の意味で、装着に関係無く5秒間点滅します。	そのまま放置する。

<走行時>

ブザー	表示灯または警告灯	警告内容	対応方法
断続音	消灯	速度超過	速度を落とす。
断続音	消灯	シフトレバー「N」の状態 でアクセルペダルを踏んでいる。	シフトレバー「N」の状態では アクセルペダルではなく ブレーキペダルを踏む。
連続音	 Error 表示	システム異常	キースイッチを入れ直す。
断続音	 残量 1 点減	バッテリー残量が なくなりました。	充電できるところへ移動する。
連続音 (1 分後停止)	 目盛 0 (1 分後消灯)	電欠	キースイッチを「OFF」にし、 充電してください。
断続音	 (P) 点灯(赤)	パーキングブレーキを解除せず に走行している	パーキングブレーキを解除する。
なし	 点滅(赤)	インバーター温度上昇または モーター温度上昇	道路状況に応じて速度を落とすか、 停止させ自然冷却させる。
断続音	 点滅(赤)	タイヤロック状態でアクセル ペダル踏み込み またはインバーター温度上昇 またはモーター温度上昇	パーキングブレーキ解除 または急な坂道を登ることを避ける などでタイヤロックを解除する。 車両を停車させて 5 分ほど 自然冷却させる。
連続音	 点灯	速度超過 モーター過電流	キースイッチを入れ直す。 安全な場所へ移動させ 5 分ほど自然冷 却させる。
なし ↓ 連続音	 点滅(赤)	補機バッテリー電圧低下 このまま走行を続けて、 さらに電圧が低下すると ブザー連続音と共に 車両が停止します。	充電できるところへ移動する。 緑点灯まで充電する。
断続音	 点滅(赤)	充電システム異常	コムズ販売店へ連絡して点検を受ける。

注意

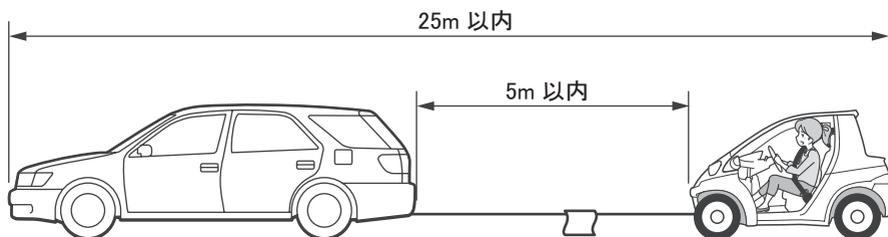
異常発生時、モーターは停止しますが車両は惰性で走行します。ブレーキを踏みながら、他の通行車両の妨げにならない安全な場所を探して、車両を止めてください。

チェックポイント

- ・ 緊急停止した場合、再度キーを差し直して走行可能になることがあります。同じ症状が繰り返された場合、コムズ販売店へ連絡して、点検を受けてください。
- ・ モーター過熱警告が点灯しているときは、急な上り坂などでの発進時に車両が下がる場合がありますので、パーキングブレーキを併用してください。
- ・ 上記対応方法にて対応しても解消されない場合は、コムズ販売店へ連絡して点検を受けてください。

(2) けん引

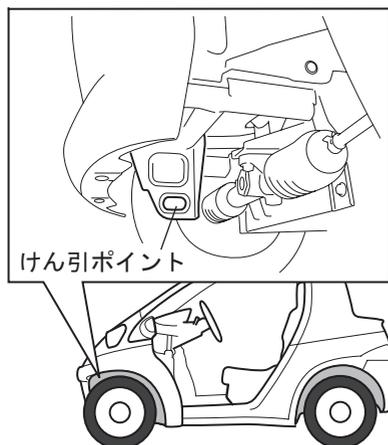
けん引はできるかぎりコムス販売店へ依頼してください。



⚠️ 注意

長い下り坂では、レッカー車で移動してください。
ブレーキが過熱して効かなくなり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

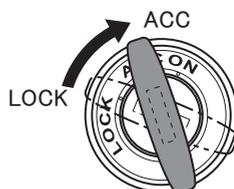
- ① ボデーに傷を付けないよう（接触部分には布等を巻く）に、必ずけん引ポイントにソフトローブを掛けてけん引してください。けん引ローブには、30センチ平方（30cm×30cm）以上の白い布をローブ中央に必ず掛けてください。



⚠️ 注意

指定以外の位置でけん引しないでください。コムスが破損したり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

- ② キースイッチは必ず「ACC」の位置にしてください。



チェックポイント

キースイッチが「ON」のままけん引すると、バッテリーに負荷がかかり破損することがあります。

⚠️ 警告

キースイッチを「LOCK」して、キーを抜くとハンドルがロック状態となるため、ハンドル操作ができなくなり非常に危険です。

- ③ シフトレバーを「N」の位置にし、パーキングブレーキを解除します。
④ けん引ローブをたるませないようにして、前の車のブレーキランプに注意しながらブレーキ操作、ハンドル操作をしてください。

⚠️ 警告

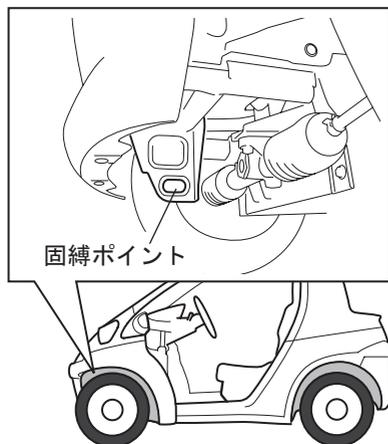
- 安全のため、けん引速度は30km/h以下で走行してください。思わぬ事故につながる恐れがあります。
- けん引フックやローブに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。けん引フックやローブが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与える恐れがあります。

(3) 固縛ポイント

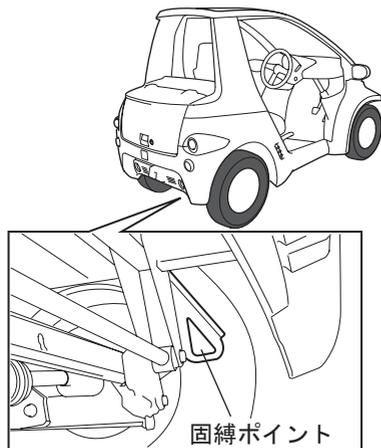
コムスを固縛（固定）するときには、下記の固縛ポイントで固定してください。

◇フロント側固縛ポイント

けん引ポイントを固縛ポイントとして固定してください。



◇リヤ側固縛ポイント

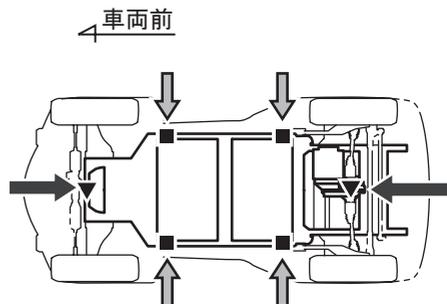


▲ 注意

指定以外の位置で固定しないでください。コムスが破損したり、思わぬ事故につながる恐れがあります。

(4) ジャッキアップ

パンク等の理由でタイヤを脱着するときは、下図のジャッキアップポイント（▼印）およびスタンド支持ポイント（■印）を参照して作業をしてください。



▼：ジャッキアップポイント

■：スタンド支持ポイント

←：ジャッキ挿入方向

⇐：スタンド挿入方向

▲ 警告

安全に作業するために、次の内容を守ってください。ケガをする恐れがあります。

- ・ 車両の前・後部をジャッキアップする場合には、必ず輪止めをしてください。
- ・ 作業は、ジャッキが外れたり倒れたりしないように、平坦で安全な場所で行ってください。

1 1. 廃棄するとき

自動車とは異なり、産業廃棄物又は一般廃棄物として処理されます。

ご購入された販売店にご相談ください。

ご不明な点がございましたら、トヨタ車体にご連絡ください。(0120-100-804)

製品についてのご相談、ご要望は…

本製品やアフターサービスなどについてのご相談、ご要望がありましたら、次の事項を必ずご確認のうえ、購入店または代理店にご相談ください。修理や改造等が必要な場合にも、ご相談ください。

製品名およびフレーム番号

ご購入年月日

ご相談内容

お客様のご住所、お名前、電話番号

購入店印

代理店印

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。



 0120-100-804

<http://www.toyota-body.co.jp>

所在地 〒448-8666 愛知県刈谷市一里山町金山100

受付時間 月曜日～金曜日
9:00～12:00 / 13:00～17:00

スピードはひかえめに。シートベルトは忘れずに。